

第2期 中央区地域福祉活動計画

令和3年2月15日中央区役所前の虹
(策定委員会最終日)



中央区健康福祉まつり2018



まちぐるみボランティア見本市2019

社会福祉法人 中央区社会福祉協議会
令和3年3月



中央区社協
イメージキャラクター
「ニジノコ」



中央区社会福祉協議会
会長
中野 耕佑

ご挨拶

中央区では、人口の増加傾向が続き、集合住宅居住者が9割を占める中で、地域の生活課題は複雑化・複合化するとともに、生きづらさを抱えた方の孤立化なども懸念されています。さらに新型コロナウイルス感染症の流行により、これまでの人と人とのつながりや支えあいの仕組みを見直すことも必要となってきました。今、地域では、区民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向けた「新しい支えあいの地域づくり」が求められています。

こうした状況の中にあって、中央区社会福祉協議会では、町会・自治会、福祉関係者、福祉施設、ボランティア団体、事業者等の皆様で構成される策定委員会を設置し、中央区版「地域共生社会」の実現に向けて区民全員で取り組むための「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定いたしました。

基本理念は「さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ～一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して～」とし、第1期「中央区地域福祉活動計画」の方向性を継承しつつ、区民の多様性と主体性をより明確に打ち出しました。令和3年度からの6年間、区民の皆様や行政、関係機関・団体等との連携・協働により、計画の実現に向けて取り組んでまいりたいと存じます。

最後になりましたが、この計画策定にあたり、ご尽力をいただきました策定委員会の川上富雄委員長をはじめ、熱心にご審議いただきました委員の皆様、貴重なご意見をお寄せいただきました区民の皆様に心から感謝いたしますとともに、今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



中央区地域福祉活動計画
策定委員長
川上 富雄

中央区地域福祉活動計画によせて

平成28年に策定した第1期計画に引き続き、第2期中央区地域福祉活動計画策定に委員長として関わらせていただきました駒澤大学の川上富雄です。委員を代表してこの計画に込めた思いやポイントを含めつつ、ご挨拶をさせていただきます。

中央区地域福祉活動計画は、中央区に暮らし、学び、働く人々が抱える生活課題・生きづらさ・孤立・不安などを、中央区に暮らし、学び、働く人々の手によって支えていくことを推進しようとする「共助のまちづくり計画」といえます。少子高齢社会化、無縁社会化、格差社会化の進展に伴い、生活ニーズも複雑化・多様化し、制度による福祉対策だけではカバーできない人々や、自立生活の継続が困難な人々が増えてきています。こうした、制度の外側や狭間への対応や、生活上のきめ細かな支援、孤立や孤独に寄り添う支援、予防的に見守る支援など、区民をはじめとする住民の皆さんの理解と協力なくしては成り立たず、そうした共助の理念を「地域共生社会」と呼んで政策的にも推進が叫ばれているところです。中央区においても、区が策定した「地域福祉計画」と、この「地域福祉活動計画」が連携しながら、みんなが安心して暮らせるための「地域共生社会」の構築を推し進めていこうとするものです。

2年近くわたる計画策定では、アンケート調査や団体ヒアリング等を行い、当事者・活動者を含む区民の皆様の思いや意見を承りました。これらを区民代表である策定委員会において分析・整理・議論し、「多様なつながりのある地域」「みんなが活動に参加しやすい地域」「困った」に気づき、支援につなげる地域」づくりを目指し、6年間でどういったことに取り組むのかを計画にまとめました。

さて、令和3年度からは計画実施段階となりますが、地域福祉活動計画の推進主体は区民をはじめとする住民の皆さんです。この計画書が、今一度、私たちのつながりのあり方について考え、地域活動や団体活動に参加してみるきっかけになれば幸いです。

目次

第1章 計画の策定にあたって	P.3
1 計画策定の背景	P.3
2 計画策定の趣旨	P.4
3 計画の位置づけ	P.4
4 計画の期間	P.6
5 策定の体制とプロセス	P.7
第2章 地域の現状と課題	P.8
1 中央区の現状と特性	P.8
2 調査結果等および策定委員会意見から	P.13
（1）「地域活動の活性化」に関して	P.13
（2）「地域のつながりづくり」に関して	P.19
（3）「制度の狭間への対応」に関して	P.24
3 「第1期計画」から「第2期計画」へ	P.27
計画の体系	P.28
第3章 計画の基本理念と目標	P.30
1 基本理念	P.30
2 目指す地域の姿	P.30
第4章 具体的な取り組み	P.31
1 多様なつながりのある地域	P.31
2 みんなが活動に参加しやすい地域	P.36
3 「困った」に気づき、支援につなげる地域	P.42
第5章 計画の推進に向けて	P.46
1 計画を支える社会福祉協議会の役割	P.46
2 ウィズコロナ・アフターコロナにおける計画の推進について	P.47
3 計画の進行管理と評価	P.48



ニジノ コラム

- 1 「社会福祉協議会」とは……………P.6
- 2 地域の最前線で見守ります「民生・児童委員」……………P.12
- 3 企業と取り組む地域の防災活動……………P.18
- 4 「みんなの食堂」……………P.20
- 5 「中央区サロンマップ」……………P.23
- 6 区民同士の支えあい・助けあい
「虹のサービス」「ファミリー・サポート・センター」……………P.25
- 7 「イナ」から「ボラ（ンティア）」へ
「夏休み福祉・ボランティア体験“イナっこ教室”」
「福祉体験講座」……………P.34
- 8 地域公益活動に取り組む社会福祉法人のネットワーク
「中央区社会福祉法人連絡会」……………P.39
- 9 「地域支えあいづくり協議体（第1層）」
・支えあいのまちづくり協議体（第2層）」……………P.40
- 10 「地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター」……………P.41
- 11 障害のある働く人のいこいの場「ニコニコドットコム」……………P.44
- 12 新しいつながりづくりに向けて……………P.47

資料編

- 1 策定委員会設置要綱……………P.50
 - 2 策定委員会委員名簿……………P.51
 - 3 策定の経緯……………P.52
 - 4 事務局・プロジェクトチーム名簿……………P.53
 - 5 アンケート・ヒアリング調査等の実施……………P.54
 - 6 パブリックコメントの実施……………P.66
- ◆ 策定委員からのコメント……………P.67

第1章 計画の策定にあたって



第1章

計画の策定にあたって

第2章

地域の現状と課題

第3章

計画の基本理念と目標

第4章

具体的な取り組み

第5章

計画の推進に向けて

資料編

1 計画策定の背景

わが国では、少子高齢・人口減少、地域社会の脆弱化等社会構造の変化の中、人々がさまざまな生活課題を抱えながらも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、平成28（2016）年6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」で示された考え方に基づき、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や多様な主体が「我が事」として参画し、人や資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」を実現することが求められています。

こうした考え方を具現化するため、平成29（2017）年6月の社会福祉法の改正を踏まえ、各区市町村における地域住民相互の「支えあいの体制づくり」や、関係機関の「包括的支援体制」の整備が進められています。さらに令和2年（2020）年6月に改正された社会福祉法に基づき、令和3（2021）年4月から既存の相談支援等の取り組みを生かし、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、対象を問わずワンストップで受け止める相談支援（断らない支援）や、個別性に応じた多様な社会参加に向けた支援（参加支援）、孤立防止や多世代交流等を目的とした地域のつながりづくりのための支援（地域づくりに向けた支援）など「重層的支援体制整備事業」に取り組むこととされています。

東京都社会福祉協議会が平成31（2019）年3月に公表した「東京らしい“地域共生社会づくり”のあり方について～最終まとめ～」では、①社会福祉法人の地域公益ネットワーク活動、②民生・児童委員、③地域福祉コーディネーターの3つの連携・協働をもとに、さらに住民団体・地域ボランティア・NPO・企業等多様な主体と協働していく「チーム方式の地域福祉推進体制」としての「東京モデル」が示されました。

中央区社会福祉協議会では、平成28（2016）年3月に策定した第1期の「中央区地域福祉活動計画」に基づき、平成29年度に「地域福祉コーディネーター（CSW）」「生活支援コーディネーター」などによるアウトリーチ（地域に出向く支援活動）体制がスタートし、民生・児童委員協議会や「おとしより相談センター」などの機関と連携しながら、地域の居場所づくりなどの取り組みを推進してきました。また地域公益活動に取り組む社会福祉法人のネットワーク「中央区社会福祉法人連絡会」、区民主体による地域課題の解決を目指す「支えあいのまちづくり協議体」などにより、多様な主体との連携・協働を進めてきました。

第1期「中央区地域福祉活動計画」の計画期間が令和2年度で終了することから、計画策定後の地域福祉に関する国・都・区などの動向を踏まえて、中央区の地域特性を生かした「地域共生社会」の実現を目指し、新たに「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定することとしました。

2 計画策定の趣旨

- 地域福祉活動計画は、区民が主体となって活動を行うための全員参加型計画です。
- 区民、ボランティア団体、NPO法人、福祉施設、民間事業所などさまざまな主体と社会福祉協議会（社協）とが相互に連携・協働して地域の課題解決に取り組むための道筋を示します。
- 区民などさまざまな主体の活動を支援するため、区（行政）との連携のもとで行う社会福祉協議会の取り組みの方向性も示し、具体的な取り組みについては別途「社協発展・強化計画」^{（※1）}を定めます。
- 計画の推進にあたっては、計画の進捗状況を検証、評価し、その後の計画の発展に反映させていきます。

（※1）

【社協発展・強化計画】

地域福祉活動計画の策定を受け、社協が取り組むべき課題・事業を明らかにし、その実現に向けた具体的な取り組みを示したものです。社協が取り組む事業については推進評価委員会（P48参照）の中で評価していただきます。

3 計画の位置づけ

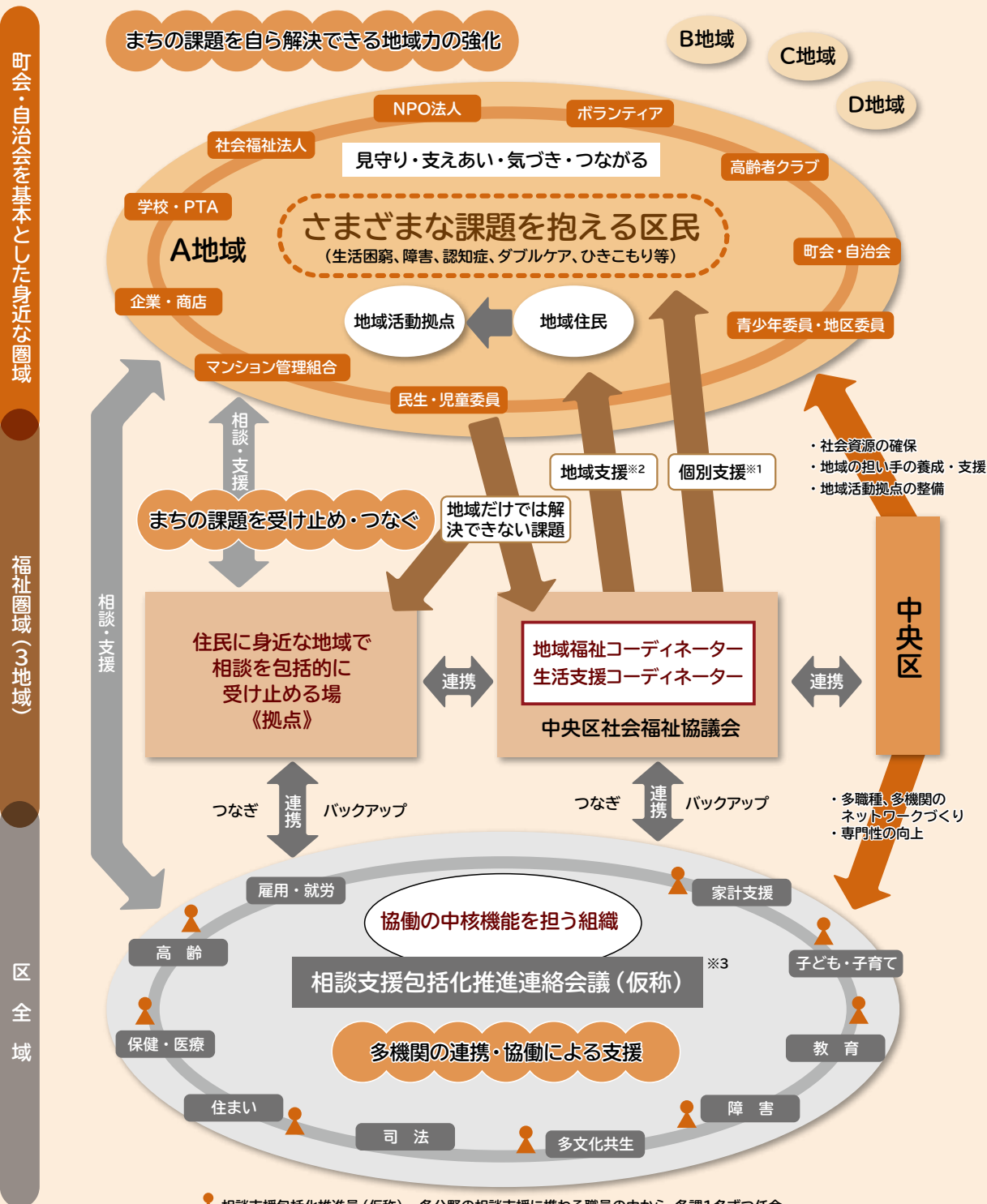
- 第1期「中央区地域福祉活動計画」の基本的な方向性を引き継ぎつつ、新たな課題を含めた区民や地域の課題を幅広く取り上げ、さまざまな主体がその課題にどのように関わり解決していくか、また、社会福祉協議会がどう連携・協働するのかをまとめたものです。
- 中央区では令和2（2020）年3月、改正社会福祉法の趣旨等を踏まえ、福祉諸計画・施策の「総合化」を図る観点から、分野別の計画を横につなぎ、総合的かつ包括的な支援の提供を推進していく中央区版地域福祉計画として「中央区保健医療福祉計画2020」を策定しました。社会福祉法第107条に基づく「市町村地域福祉計画」として策定された「中央区保健医療福祉計画2020」は、本計画とは車の両輪の関係にあるため、相互に連携・協働することにより、一体的に地域福祉施策を推進します。





- 「中央区保健医療福祉計画2020」が目指す地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の中で、社会福祉協議会は「地域における支えあいの推進役」として、地域の課題を地域自ら解決できる地域力の強化を図っていきます。

中央区版「地域共生社会」の実現に向けた包括的な支援体制のイメージ図



相談支援包括化推進員（仮称）…各分野の相談支援に携わる職員の中から、各課1名ずつ任命

※1 個別支援…アウトリーチ（地域に向かう支援活動）による生活課題の把握、課題の解決に向けた支援

※2 地域支援…地域で多世代が支えあう仕組みづくり、地域活動団体のネットワーク化、支援・ボランティアの育成・支援

※3 相談支援包括化推進連絡会議（仮称）…制度の狭間、複合的な課題等への対応、日頃からの顔の見える関係づくり

4 計画の期間

- 本計画の期間は令和3（2021）年度から令和8(2026)年度までの6年間とします。（3年目に中間見直しを行います。）

計画/年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
地域福祉活動計画	H28～ 第1期	第2期					
中央 区 の 行 政 計 画	保健医療福祉計画 (地域福祉計画)	第5次					
		(前期)			(後期)		
	子ども・子育て 支援事業計画	第2期					
	高齢者保健福祉計画 介護保険事業計画	H30～ 第7期	第8期				
	障害者計画・ 障害福祉計画・ 障害児福祉計画	H30～ 第5期障害 福祉計画・ 第1期障害 児福祉計画	第6期障害者計画 第2期障害児福祉計画				

ニジノ



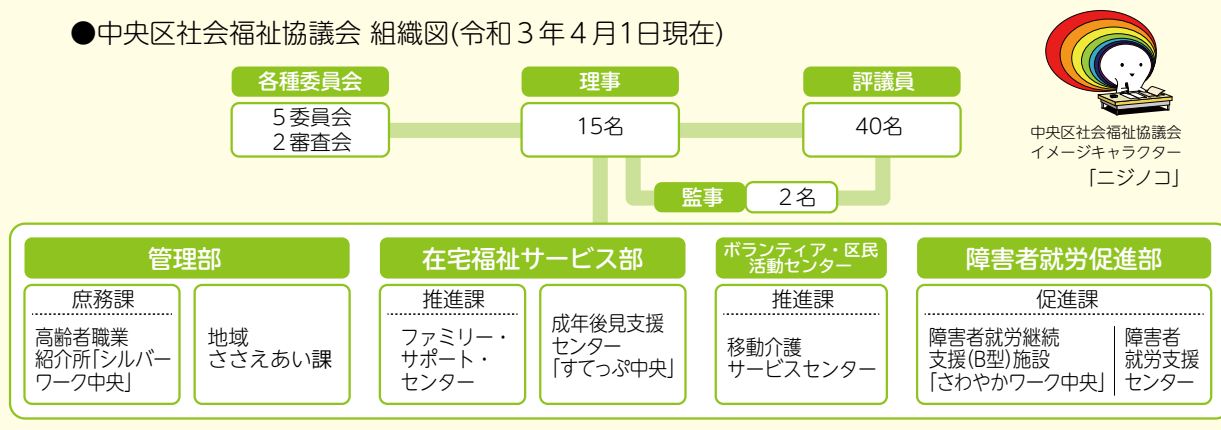
1

コラム

「社会福祉協議会」とは

住民主体の理念に基づき、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりに取り組む社会福祉法人です。行政とのパートナーシップのもと、区民や町会・自治会、民生・児童委員等の団体、企業および行政など地域の皆さんとの連携・協働により、さまざまな地域福祉活動を行う「自主性」と「公共性」をあわせもった組織です。

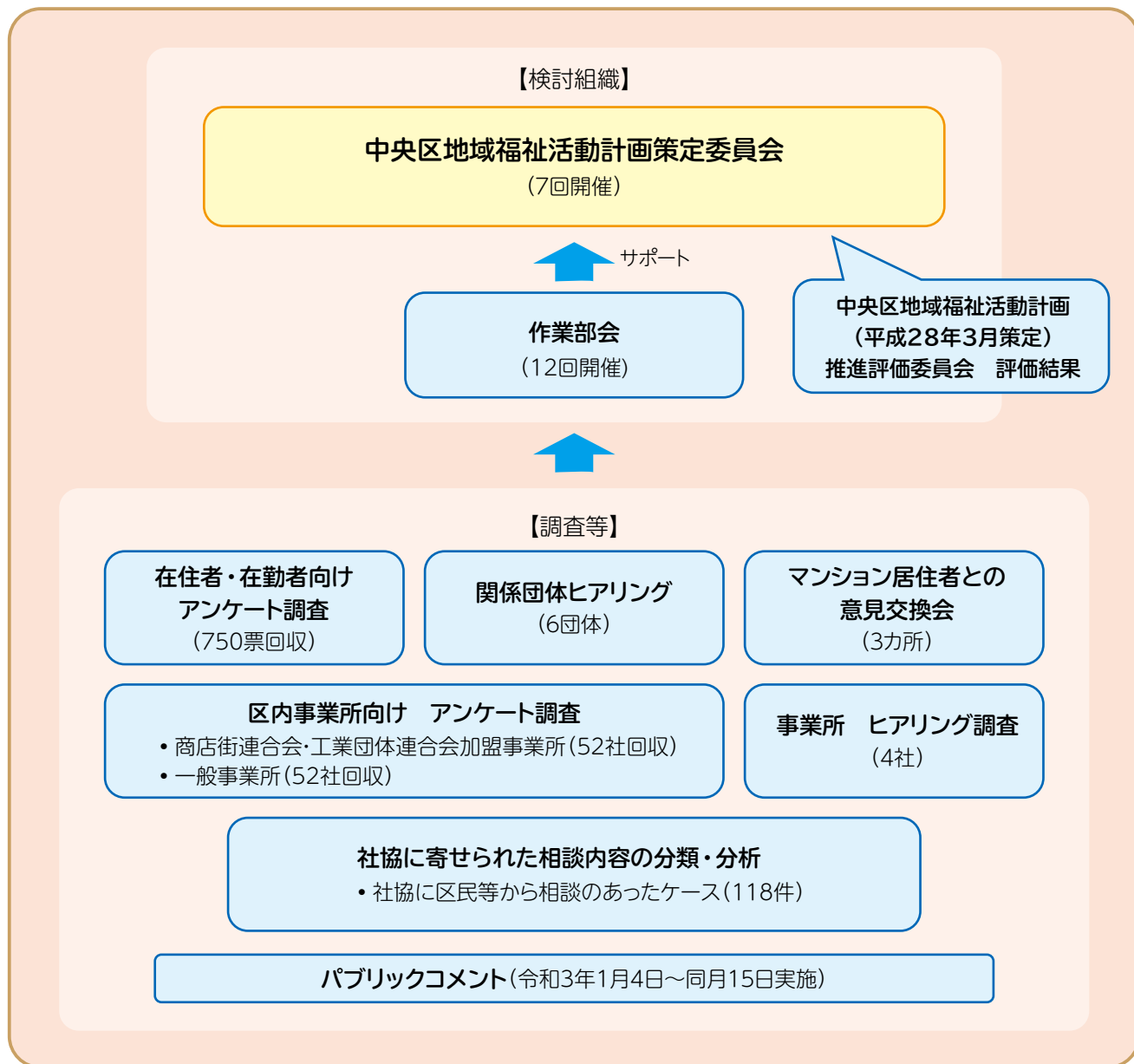
●中央区社会福祉協議会 組織図(令和3年4月1日現在)





5 策定の体制とプロセス

- 計画の策定にあたっては、「中央区地域福祉活動計画策定委員会」と策定委員会をサポートする「作業部会」を設けて検討しました。
- 「策定委員会」は、町会・自治会をはじめとする区民の代表や福祉関係者、ボランティア団体、福祉施設、民間事業所など、地域に関わるさまざまな委員で構成しました。
- 「作業部会」は社協職員によるプロジェクトチームとして構成し、各種調査の集計・分析など策定委員会をサポートしました。
- 策定のための調査として、区民（在住者・在勤者）や事業所を対象に「アンケート調査」や「ヒアリング調査」を実施するとともに、区内3地域のマンション居住者を対象とした「意見交換会」などを行いました。また、広く区民からの意見を反映するため、「パブリックコメント」を実施しました。



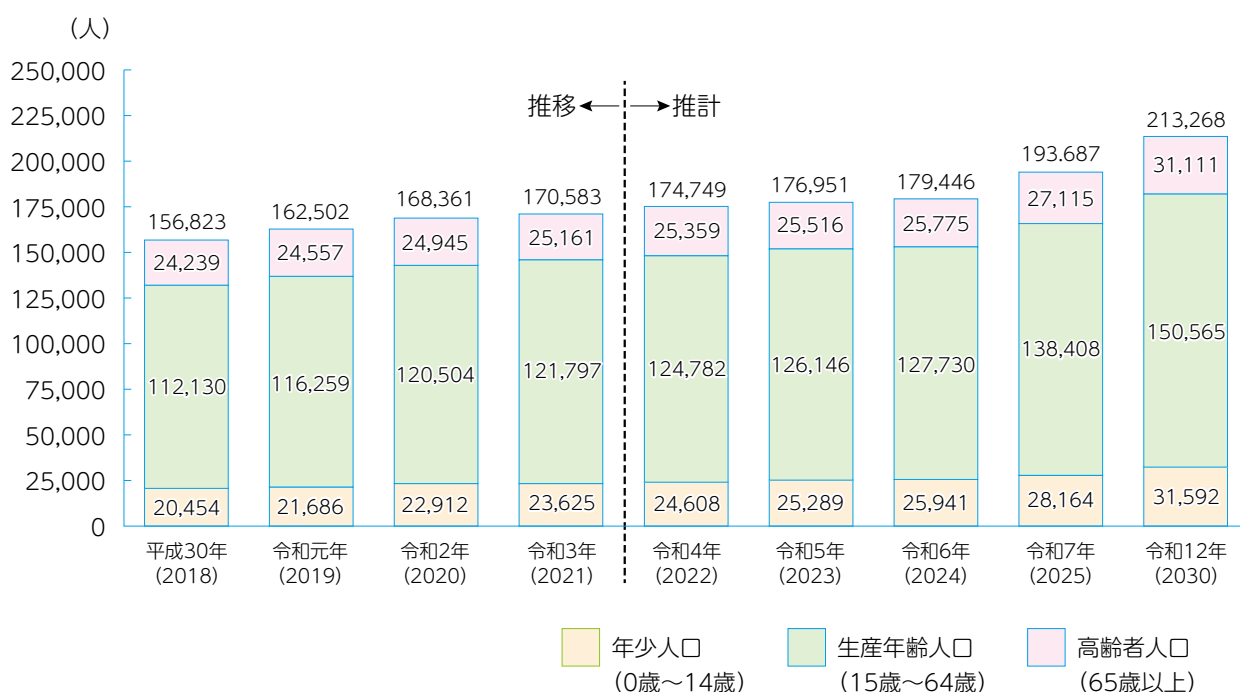
第2章 地域の現状と課題

1 中央区の現状と特性

(1) 年齢3区分人口の推移と推計

- 日本全体が少子高齢化による人口減少傾向にある中、中央区においては若年層を中心に定住人口の増加が続いています。
- マンション開発等に加え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村がある晴海地区における住宅開発等により人口はさらに増加し、令和8(2026)年には20万人に達するものと推計されています。

年齢3区分別人口の推移と推計（中央区）



資料：中央区「住民基本台帳」(各年1月1日現在)

※令和4(2022)年以降は区の推計値（令和3年1月1日現在の人口を基準人口として作成）

中央区の課題

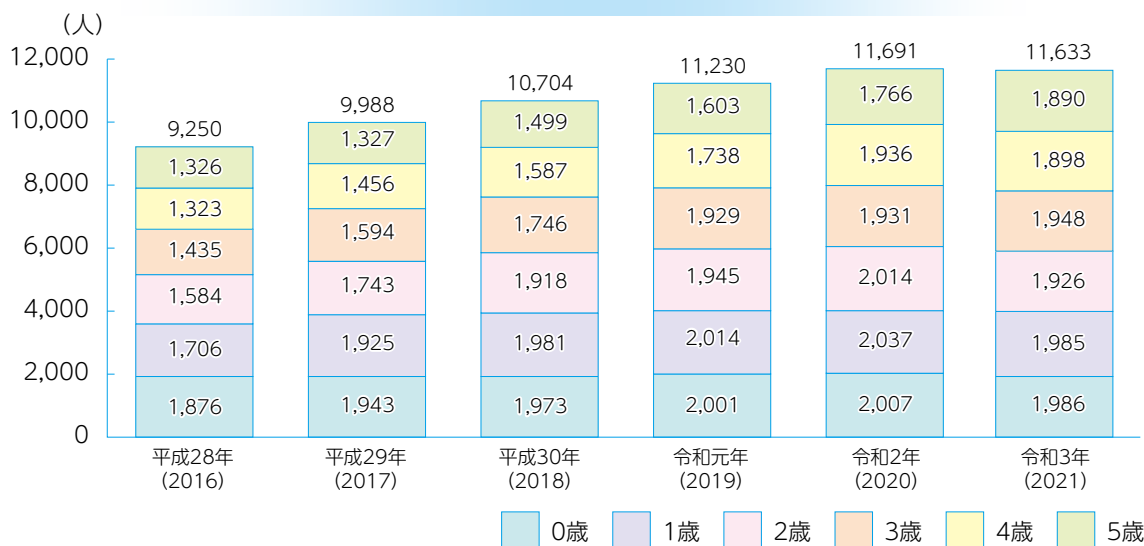
共働き世帯の増加や就業形態・価値観の多様化に伴い、若い世代をはじめとする新しい区民と地域との新たなつながりという可能性を秘めています。その反面、地域とのつながり方が分からない、必要な情報が届かないなどの課題も見られます。



(2) 乳幼児人口の推移

- 特に30歳代、40歳代の子育て世代の人口が増加していることから、これに伴い乳幼児人口も増加傾向にあります。

乳幼児人口の推移（0歳から5歳まで）（中央区）

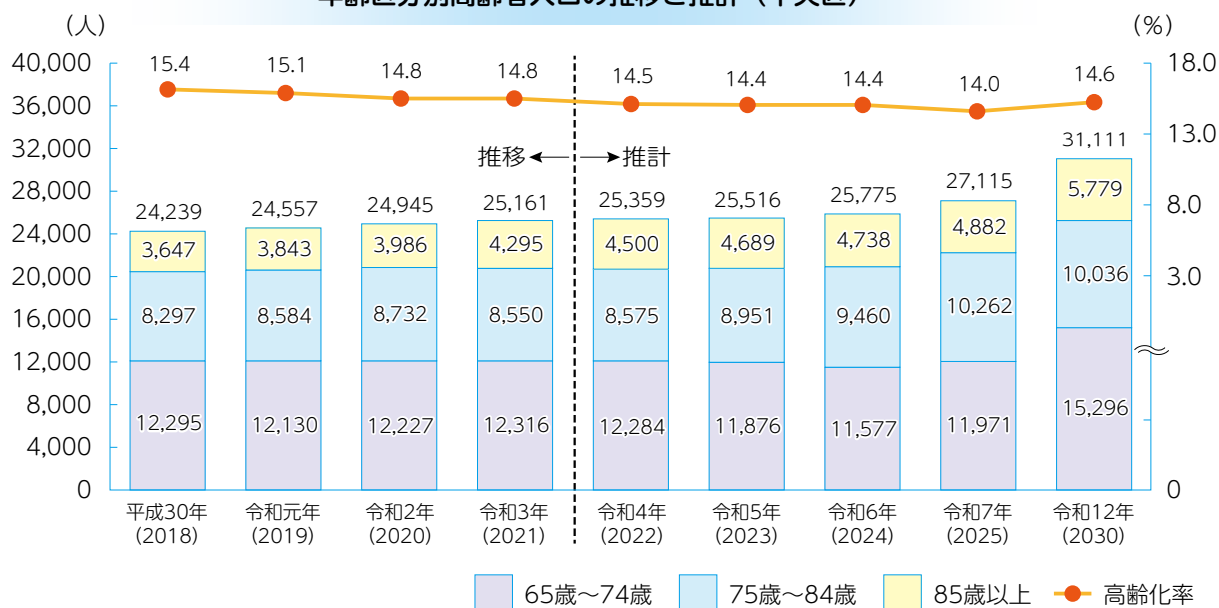


資料：中央区「住民基本台帳」(各年1月1日現在)

(3) 高齢者人口の推移と推計

- 高齢化率は全体の人口増加により低下していますが、高齢者の総数は増加しており、中でも今後は後期高齢者（75歳以上）の増加が続くことが見込まれています。

年齢区分別高齢者人口の推移と推計（中央区）

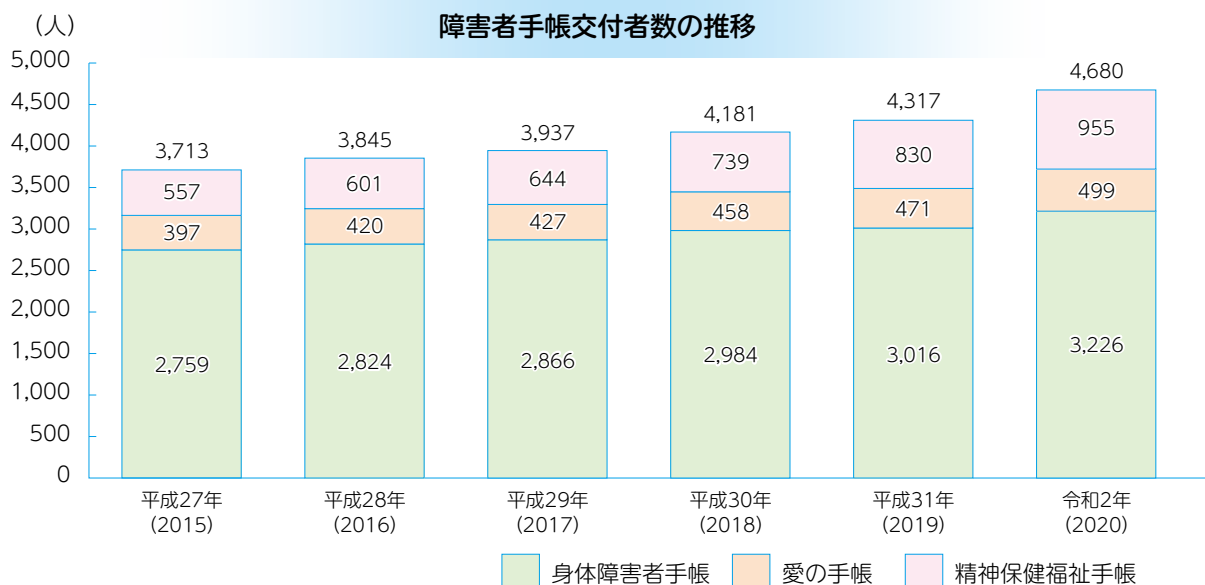


資料：中央区「住民基本台帳」(各年1月1日現在)

※令和4(2022)年以降は区の推計値(令和3年1月1日現在の人口を基準人口として作成)

(4) 障害者手帳交付者数の推移

- 障害者手帳交付者数は増加が続いており、令和2（2020）年4月1日現在は4,680人で、平成27（2015）年時点と比較すると1.26倍となっています。



(5) 生活保護世帯数および人員数の推移

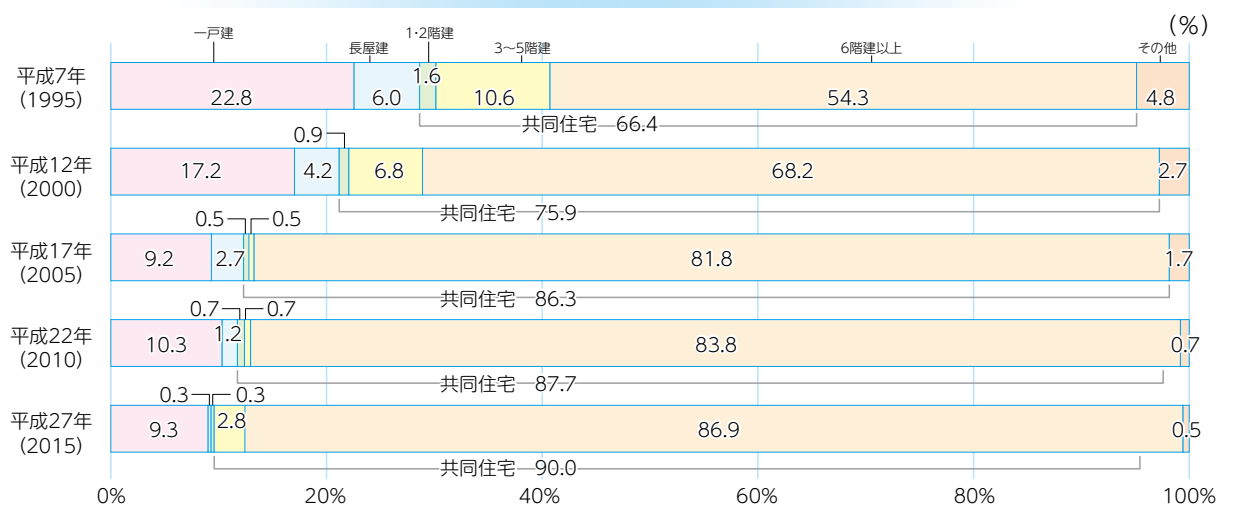
- 本区の生活保護世帯数および人員数は、近年横ばいで推移しています。本区の人口が増加傾向であるため、保護率は低下傾向であり、令和2（2020）年度は6.67%となっています。令和3（2021）年度以降の人数や保護率については、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されています。



(6) 居住形態別世帯割合の推移

- 居住形態としては、共同住宅（マンション）に居住している世帯の割合が非常に高くなっており、平成27年には全体の9割を占めています。

住宅の建て方別世帯割合の推移

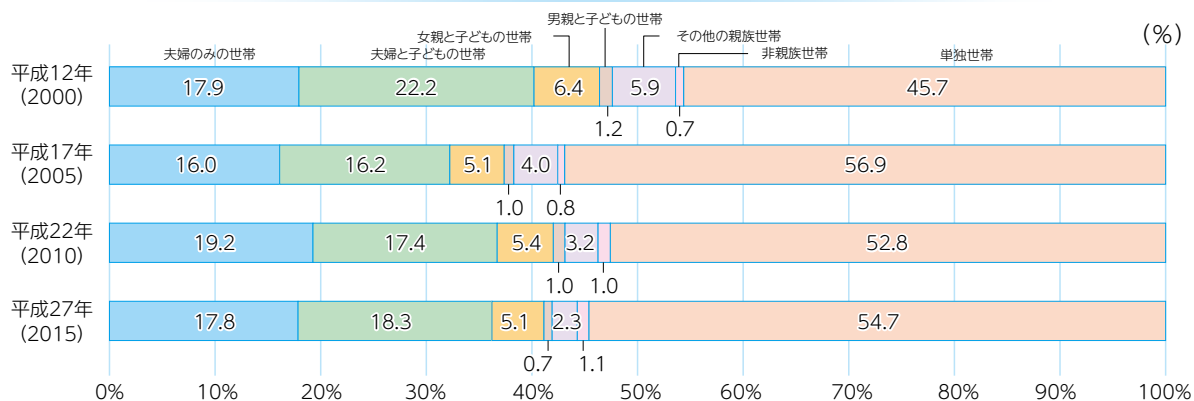


資料：総務省統計局「国勢調査」（平成7年、平成12年、平成17年、平成22年、平成27年）

(7) 世帯構成の推移

- 世帯構成については、単独世帯が全体の5割以上を占めています。

世帯構成の推移



資料：総務省統計局「国勢調査」（平成12年、平成17年、平成22年、平成27年）

中央区の課題

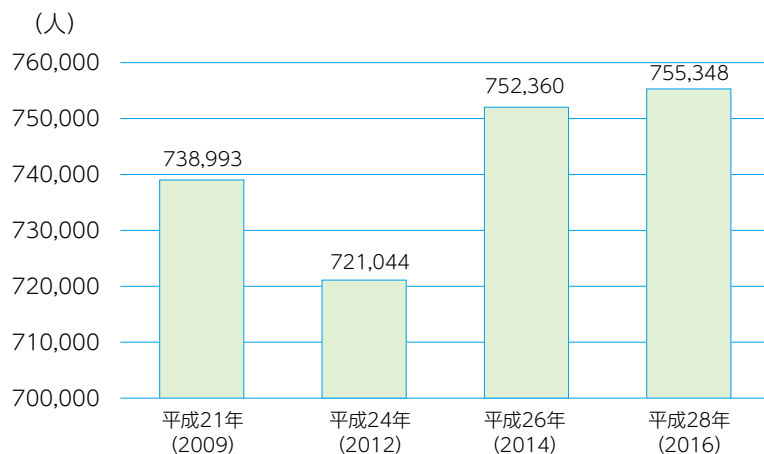
マンション居住や単独世帯の割合が高いことから、地域のつながりが弱くなることによる孤立化と、それに伴うフレイル※・認知症の進行や住環境の悪化などの困りごとへの対応の遅れが懸念されます。

※フレイル：加齢とともに筋力や活力が低下している状態

(8) 事業所数および従業者数の推移

- 中央区内の事業所数は、平成28年の調査結果で35,745と平成26年調査より、やや減少したものの23区トップクラスにあります。また従業者数(在勤者)は75万人以上で夜間人口の5倍以上に達しています。

従業者数の推移



資料：総務省統計局「経済センサス基礎調査・活動調査結果」(平成21年、平成24年、平成26年、平成28年)

中央区の課題

事業所(在勤者)と地域とのつながりについては、立場を超えた支えあい求められる災害時をはじめ、さらに強めていく必要があります。

ニジノ



2

コラム

地域の最前線で見守ります 「民生・児童委員」

「民生・児童委員」は、地域の人々の身近な相談相手として、また行政とのパイプ役として、民生委員法等に基づき厚生労働大臣から委嘱されています。中央区では104名(令和2年12月1日現在)の方が活動されており、地域福祉活動などにおいて社会福祉協議会と密接に連携しています。

地域のなかで日々築いてくださっているさまざまなつながりは、災害時における支えあい・助けあいづくりにも重要な役割を果たしています。



2019「民生委員・児童委員活動 普及・啓発パレード」にて

2 調査結果等および策定委員会意見から

地域の現状と課題について、第1期計画で設定した3つの地域課題「地域活動の活性化」「地域のつながりづくり」「制度の狭間への対応」ごとに「ヒアリング結果」「アンケート結果」および「策定委員会での意見」の中から「地域の現状と課題」に関する主な意見やポイントを抽出しました。

(1) 「地域活動の活性化」に関して

ヒアリング結果（関係団体・マンション居住者）

- ・一過性ではなく継続的に活動しているので、ゆるく時間をかけてつながりをつくっている。
- ・地域に関わった回数だけ、地域に対する愛着がわく。
- ・活動に入りやすく、出やすいことが大事。
- ・ボランティアを人の好意だけに頼るのではなく、ボランティア活動に参加したら何かインセンティブがあるとよいのではないかと。
- ・高齢者の集いの場で、高齢者がお客さんとしてだけでなく、自分はこんなことができるから、と来て会場をセッティングしてくれたり、得意だから教えたいとか、色々なところで居場所ができてきたように思う。
- ・中央区で暮らして30年。子どもはおらず、一人暮らしでもあるので区民同士のふれあいの経験はなかった。みんなの食堂に来て子ども達から強い刺激を受け活性化している。
- ・子どもが小さいころ、ママ友同士で「助けあいの活動」をやっていた。その際、気を使ってお菓子などを持ってきてくれたので、それなら有償ボランティアの仕組みの方がお互いやりやすいのではないかと思った。
- ・地域行事への参加に意欲的な若者は何人かいる。昔から住んでいる高齢者にも率直な意見をたくさん伝えており、世代交代を実感できるときがある。
- ・男性参加者が多い活動は、居心地が良いこと、男性スタッフがいること、男性参加者が一人ではないとわかること、参加者をお客様扱いしておらず一緒に「居場所」を創っていることなどがうかがえる。

ポイント

- ・気軽に参加できる活動で出入りが自由なことが重要である。
- ・世代を超えてさまざまな活動が徐々に広がっている。

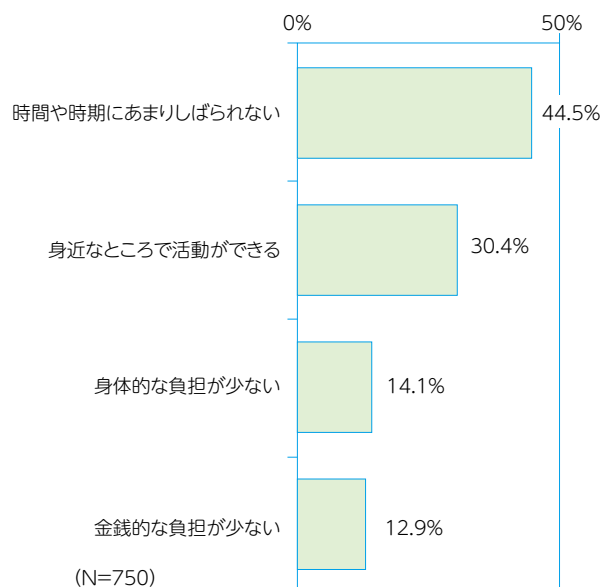
アンケート結果（在住者・在勤者）

Q：今後、地域で活動に参加する場合、どのような条件があれば参加しやすいですか？（2つまで回答）

⇒「時間や期間にあまりしばられない」（44.5%）が最も高く、次いで「身近なところで活動ができる」（30.4%）となっている。

ポイント

- ・ 身体的・金銭的な負担が少ないことよりも、活動場所が近所であることや、時間や期間にあまりしばられない活動が参加しやすい。



ヒアリング結果（中央ぶらねっと ※2） 参加企業）

- ・ 社会貢献したことの成果や達成感、満足感といったものが得られるとよい。
- ・ どんな社会貢献を企業に求めるのか、を具体的に提示してもらえると会社としての意思決定もしやすい。
- ・ 世界に目を向けるというよりは、まずは身近なところから何かやろうという思いから活動を始めた。
- ・ 特別感はなく、とりあえず「活動したら気分いいよね」「朝から活動して気持ち良かったね」という感じで皆が取り組んでいる。
- ・ 地域貢献活動に本業を生かせないかと考えている。

ポイント

- ・ 地域活動に参加したいという意欲のある企業であっても、まずは身近で取り組みやすい活動から始めたい、という傾向がある。

（※2）

【中央ぶらねっと（中央区社会貢献企業連絡会）】

区内に拠点を置く有志企業で構成された組織です。平成6年に発足し、企業同士の情報交換にとどまらず、ワーキンググループ活動など、「地域とともに歩む」ことをコンセプトに、参加企業が主体性を持って区内でさまざまな地域貢献活動を企画・実施しています。



アンケート結果（区内一般事業所）

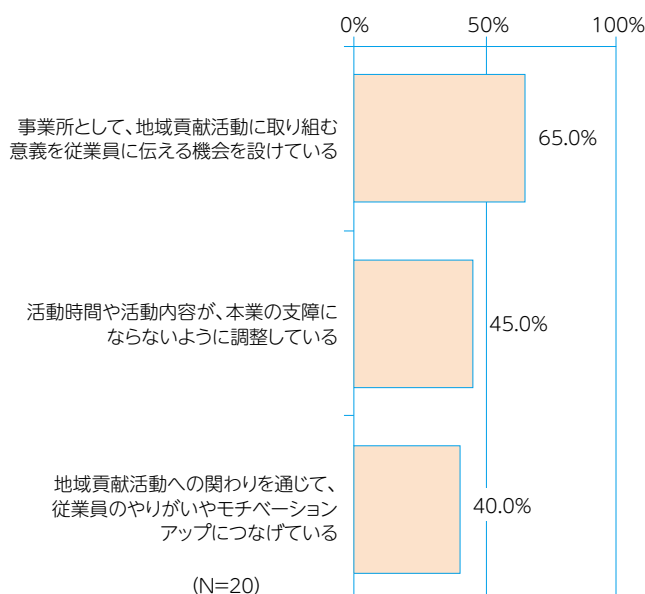
既に地域貢献活動を行っている事業所に対して

Q：事業所の業務と地域貢献活動の両立を、どのように工夫されていますか？（いくつでも回答）

⇒「地域貢献活動に取り組む意義を従業員に伝える機会を設けている」(65.0%)が最も高くなっている。

ポイント

- ・ 地域貢献活動を行っている企業はその意義を従業員に伝えており、モチベーションアップにつなげている。



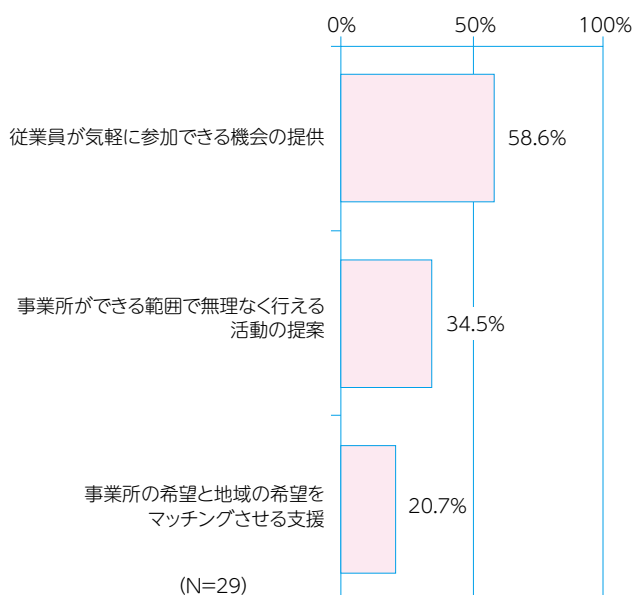
現在、地域貢献活動を行っていない事業所に対して

Q：どのような支援があれば、貴社として活動を始めやすいですか？（2つまで回答）

⇒「従業員が気軽に参加できる機会の提供」(58.6%)が6割近くを占めている。

ポイント

- ・ 地域貢献活動を行っていない事業所であっても、気軽に無理なく活動できるような機会があれば活動を始めやすい。



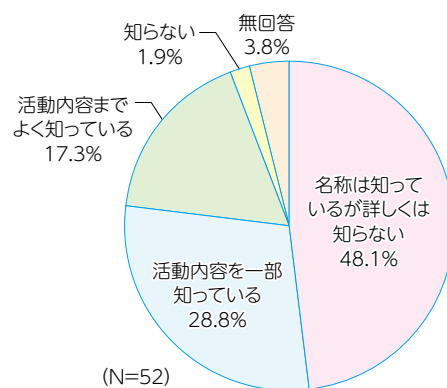
アンケート結果（商店街連合会・工業団体連合会加盟事業所）

Q：中央区社会福祉協議会（中央区社協）をご存知ですか？

⇒「名称は知っているが詳しくは知らない」（48.1%）が最も高く、次いで「活動内容を一部知っている」（28.8%）、「活動内容までよく知っている」（17.3%）となった。

ポイント

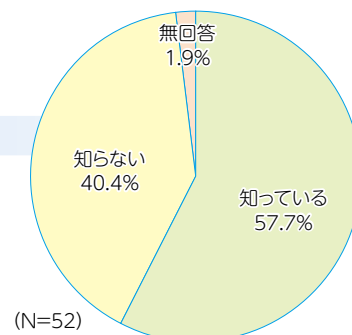
- 名称の認知度に比べて活動内容はあまり知られていない。
- 「知っている」と回答した事業所が9割を超えており、一般事業所に比べると認知度は高い。



※一般事業所向けアンケート結果

Q：中央区社会福祉協議会（中央区社協）をご存じですか？

⇒「知っている」：57.7%
「知らない」：40.4%

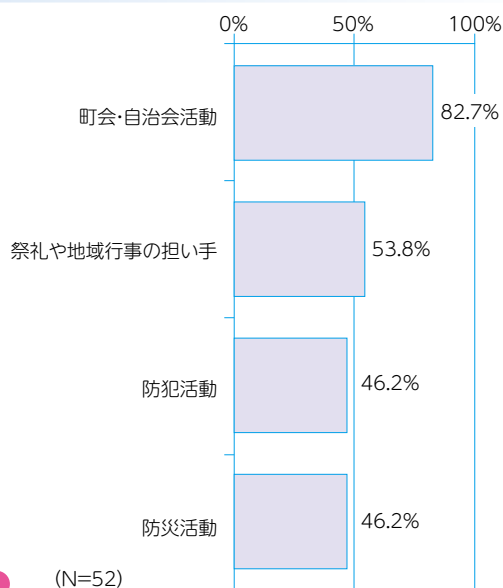


Q：中央区でどのような地域活動を行っていますか？（いくつでも回答）

⇒「町会・自治会活動」（82.7%）が8割以上で最も高くなっている。次いで「祭礼や地域行事の担い手」（53.8%）となっており、「防犯活動」（46.2%）、「防災活動」（46.2%）のいずれも5割近かった。

ポイント

- 地域活動の中では町会・自治会活動を通じて地域とつながっている事業所が多い。





策定委員会での意見

- 社会福祉法人連絡会の「福祉体験合宿」を体験した中学生が、その後高齢者施設でボランティアを行っている。若い世代を育てることは、私たちの重要な使命だと実感した。
- 「中央ぶらねっと」に参加しており、帰宅困難者の受け入れで会社の1階部分を開放する等、地域貢献に力を入れている。周知の方法などの課題を解決すれば、よりよい事業所とのタイアップが可能になると思う。
- 「通いの場」^(※3)を2カ所運営している。開催回数を増やしてほしいとの声があり、サロン同士が連携をとることでそういったニーズに応えられるのではないか。
- 防災イベントを行った際に、関係団体や町会関係などが集まったが、地域に詳しい方が参加していたため、交流が深まった。ボランティアと地域の人をつなぐ機会を増やしていけたらよい。
- バラバラのグループがお互い情報共有して連携して活動を進める輪ができれば、区の中での活動が広がるのではないか。
- 地域と子ども・女性とのつながりをきっかけに、若い担い手を増やすことが必要だと思う。
- 身近な場所に結節点（区民同士の接点や交流機会となる場所）を持つようにすべきである。
- 障害のある人は「いざというときは助けてほしい」と思っているが、それを地域でオープンにできず、SOSや困りごとを隠してしまいがちな傾向がある。区内でつながりづくりに関して優れた活動をしている町会等の取り組みを紹介し、よいところを広めていってはどうか。

ポイント

- まずは活動への入りやすさや親しみやすさを重視した、活動の裾野を広げるための取り組みが必要ではないか。
- 活動している人同士や活動している人と活動していない人との交流や連携が必要である。

(※3)

【通いの場（フレイル予防の取り組み）】

地域住民が主体となり、高齢者が身近な場所で定期的に集い、交流することができる「場」です。勝どきダイルームなど区内各所で介護予防（フレイル予防）や仲間づくり（孤立防止）などさまざまな活動が行われています。

※フレイル：加齢とともに筋力や活力が低下している状態

導き出されたキーワード

➤「みんなが」

…昔から住んでいる人も新しく越してきた人も、若い世代、働き盛りの世代や子育て世代、子どもたちや高齢者など、年代や性別・立場に関係なく参加できるように敷居は低く、間口は広くする。

➤「参加しやすい」

…身近なところで、まずは無理のない形から。参加する意義は分かりやすく、お客さんとしての立場というよりも、自分のできる範囲でその場に貢献する。

➤「続けられる」

…活動を続けるためにモチベーションの工夫や次の担い手を育成する。

➤「横のつながり（活動者・団体同士の）」

…お互いの活動内容の共有や顔の見える関係づくりを行う。

ニジノ



3

コラム

企業と取り組む地域の防災活動

「日本橋三丁目西町会」は、東京駅前という日中多くの人が働いている土地柄もあり、地域住民だけでなく、事業所との協力体制をイベントや祭礼を通じて長年築いてきました。災害時に情報がほしいという地域の声に応え、平成21年から地域の事業所と一緒に防火防災訓練を行っており、現在では100社以上が参加しています。

「まずは顔見知りになって挨拶ができるようになることが大切」と町会のご担当の方が話されていましたが、地域の特性を踏まえながら、愛する地元をみんなの力で守り、盛り上げていく取り組みは大きく広がっています。





(2)「地域のつながりづくり」に関して

ヒアリング結果（関係団体・マンション居住者）



- 地域の防災訓練に積極的に障害者団体が参加するようにすすめている。地域にどのような災害時の要援護者がいるのか、地域の人を知ること大切である。
- 自身は身体障害者であるが、運動会では親から言われて徒競走で走らされていた。周りは気の毒に感じていたそうだが、親は平気で、今こうして皆さんの前で話せることも小さい頃から地域・社会に出してくれたおかげだと感じている。
- 子ども連れで食べに行けるところもなく、仲の良い友達だけのグループから広がることはなかなか難しいが、「みんなの食堂」だとさまざまな年齢層の方が参加するので多くの交流がある。
- 自分の町会では、防災訓練のときにお互いに知りあう関係をつくろうということで、居住者同士の交流の機会をつくっている。安全・安心・快適なマンション生活だが、発災時には人と助けあわなければやっていけないこともあるので、気がついたことなど仕掛けていけるといいと思う。
- 昔からのつながりだけではなく、新しいつながりを意識的に自分達がつくっていかなければならないと思う。
- 民生委員を務めているが住民の入れ替わりが激しく、マンション内に誰が生活しているか分からないうえに、地域と関わりを持ちたくない人も少なくないように感じている。一方で昔から中央区に居住している人たちは自治会に所属しており、地縁が強く残っている。
- 中央区での暮らしを始めた当時は仕事中心の生活をしており、なるべく人と関わりたくない、迷惑を掛けたくないと思っていた。だから、関わりを拒否する人の気持ちも分かる。退職後にマンションの理事会へ熱心に誘われたことをきっかけに今は見守り活動を行う側になった。
- 5年ほど前に集会室が利用できるようになったが稼働率が想定したよりも低い。マンションの住民が活動メンバーに入っていれば外部の人間も利用できるようにしても良いのではないかと考えている。

ポイント

- 防災訓練など多様な機会を通じてつながりをつくることができている一方で、なるべく人との関わりを避けたいと思う人も少なくない。

ニジノ



4

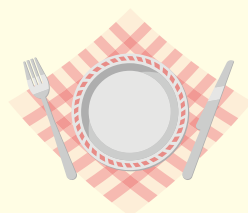
コラム

「みんなの食堂」

子育て世帯のみならず、高齢者や障害者、老若男女問わず参加できる「みんなの食堂」が、地域活動の拠点である勝どきデイルームなどで開かれています。食を通じた交流を目的とした活動は、アットホームで和気あいあいとした雰囲気のなか、多くの方にとって食事を楽しむだけではなく、地域の居場所として根づいています。



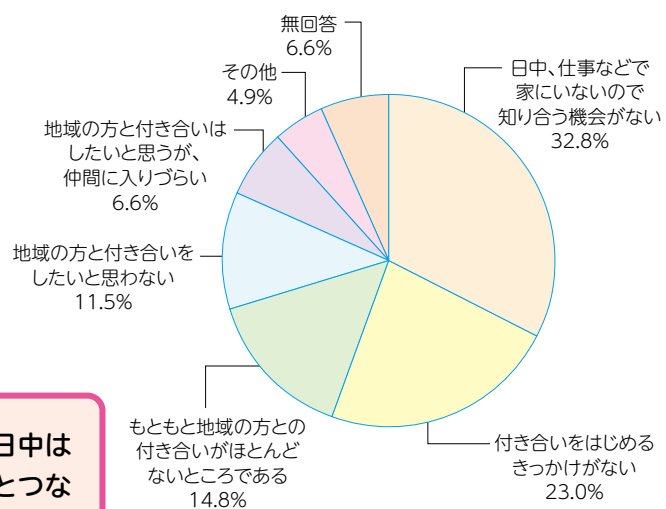
勝どきデイルームでは、「みんなの食堂」のほかにも区民主体の団体が数多く活動しており、地域の課題解決に取り組むさまざまな「場」が誕生しています。



アンケート結果（在住者・在勤者）

Q：（地域の付き合いが「ほとんどない」と答えた人に）その理由に最も近いものは何ですか？

⇒ 「知り合う機会がない」（32.8%）が最も高く、次いで「きっかけがない」（23.0%）、「もともと地域の付き合いがほとんどない」（14.8%）となっている。



ポイント

- ・ 地域が生活の拠点でありながら、日中は仕事などで家にいないため、地域とつながる機会や場がない人が多い。

(N=61)



Q：あなたが考える「地域」の範囲は？

⇒「一戸建て」居住者

▶「町会・自治会など」：49.5% 「地区」：13.9%

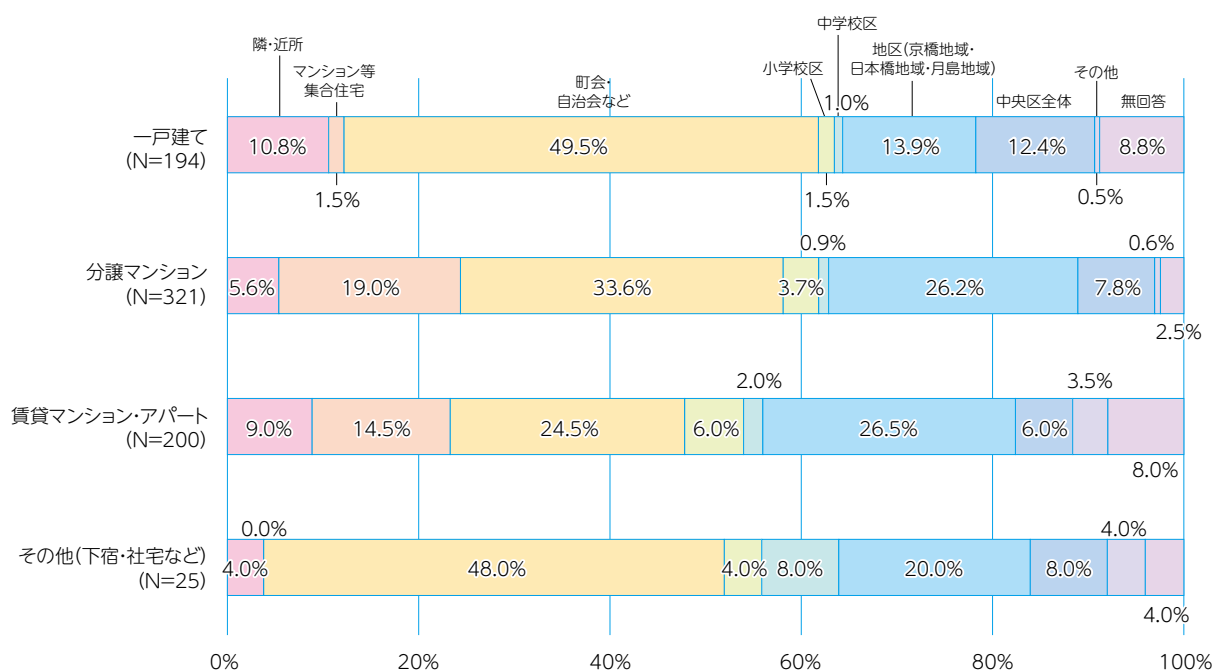
「分譲マンション」居住者

▶「町会・自治会など」：33.6% 「地区」：26.2%

「賃貸マンション・アパート」居住者

▶「地区」：26.5% 「町会・自治会など」：24.5%

※ここでの「地区」は「京橋地域・日本橋地域・月島地域」のことを指す。



ポイント

- ・地域の範囲としては、一戸建て、分譲マンション、その他では町会・自治会と考える人が多く、賃貸マンション・アパートでは地区（京橋・日本橋・月島）が多い。また小学校区・中学校区との認識はいずれも低い。



策定委員会での意見

- 地域に対するイメージは、「中央区」全体というよりも、地区（京橋、日本橋、月島）や、地名（銀座、築地、八重洲…）など比較的小さな範囲でイメージしている。
- 障害者同士の交流サロンを中央区サロンマップに掲載してから、2名の方の参加が新たに増えた。1人目は「平日は企業で働いているが、週末に集まれる居場所がほしい、友人がほしい」との理由で参加している方、2人目は区外在住だが中央区の企業で働いている方で、「横のつながりがほしい」との理由で参加されている。
- 高層マンションの居住者をはじめ単身世帯の高齢者に地域のイベントに参加してもらったり、マンション内でイベントを企画することが必要だと感じた。折り紙で鶴を折るオリンピック・パラリンピック関連のイベントに参加した際、同じマンション内でお互いを訪ねて折り方を教え合うなどということがあり、マンションに居住している高齢者同士の交流につながった。きっかけがあれば、顔の見えるつながる関係ができると実感した。

ポイント

- 地域の「範囲」を柔軟に捉え、それぞれの地域でのつながり方に合わせた居場所づくりや交流のための仕掛けが必要である。
- 地域の居住者だけでなく在勤者なども含めた多様なつながりが必要である。

導き出されたキーワード

➤ 「つながりの多様性」

…町会・自治会など地域のつながり、子育て・防災など関心あるテーマごとのつながり、長くて深いつながりからいざというときの助けあいまで、つながり方にもメリハリがある。

➤ 「場所（居場所）がある」

…情報交換や交流、役割があるなど自分らしく過ごせる。

➤ 「交流できる」

…地域の人や気の合う仲間と交流し、人間関係を築ける。



ニジノ



5

コラム

「中央区サロンマップ」

サロンとは、対象者であれば誰でも参加できる地域の居場所です。「中央区サロンマップ」では、地域の皆さんが気軽に参加できるサロンの開催場所や日時、活動内容を、地図と一覧表にまとめて分かりやすくご紹介しています。

「中央区サロンマップ」は、第1期「中央区地域福祉活動計画」に位置づけられた「地域活動に参加しやすい仕組みづくり」として、社協職員による「マップ・居場所づくり検討プロジェクトチーム」が中心となって作成しています。中央区社協だより平成31年1月号に特集記事として第1版が掲載され、情報の充実を図りながら令和3年1月号で第4版となりました。

高齢者や子育て世代の交流を目的とするもの、障害のある方が余暇を楽しむもの、多世代交流を目的とした食事提供の場など、掲載されるサロンは版を重ねるごとに増えており、区内各所で多様なサロンが開かれています。社会福祉協議会では、今後も「中央区サロンマップ」を発行して、地域の居場所を紹介し、サロン活動を応援していきます。



※最新のマップは社協ホームページ、広報紙「中央区社協だより」でご覧いただけます。
掲載ご希望のサロン・団体の方は社協までご相談ください。
お待ちしております！

(3)「制度の狭間への対応」に関して

ヒアリング結果（関係団体）

- 何かあったときに、自分自身ができなくても、誰かにつなぐことができるという存在の人がいると安心感があるのではないかと。自分自身が直接支援をすることはできなくても、情報を発信すること、誰かにつなぐことができるような人が地域にいることが大切である。
- 顔馴染みではなくても挨拶をすることにしている。警察からも挨拶が防犯対策に繋がると伺っている。また、管理人さんが外に出ていない方や気になる人を民生委員に報告するケースもある。
- 見守り活動を行う中で、家の中での問題に対する対応が難しいと感じている。拒否されることや同居人から怒鳴られることも見守り活動を通じて経験した。
- たとえば子どもが熱を出したけど働きに行かなければならないときに、知っていればちょっと預かってあげられるというつながりは、情報が分かればつくっていけると思う。「ファミリー・サポート・センター」などの制度を紹介することはできるが、家にいるベテランママさんもある程度いると思うので、地域や社会資源も活用しながら助けあいができるといい。
- 自分からは「こういうふうにした方がいいよ」とまでは助言できない、助言しづらい悩みごとが近所でよくある。
- 悩んでいる人が来られる場所があることが大切。人とのつながりを求めている面でも面倒くさがってなかなか参加できない人や、関わる大変さ、関わられる大変さもあって自分に都合のよいタイミングで関わってほしい、という人もいる。さまざまな思いがあると思うが、こうした人も参加できる場があるとよい。

ポイント

- 見守り活動を実施することで、知らず知らずのうちに相互に「見守り」「見守られ」の関係が築かれている。
- 自分自身で困っている人の対応ができない場合にも誰かにつなげられることが重要である。





ニジノ



6

コラム

区民同士の支えあい・助けあい 「虹のサービス」 「ファミリー・サポート・センター」

「虹のサービス」は、高齢や障害、産前産後などの理由により、日常の家事などにお困りの方が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域のボランティアの方が家事などのお手伝いをする有償の助けあい活動です。



「ファミリー・サポート・センター」は、子育てサポーターとして育児の手助けができる方と区内在住の育児の手助けが必要な方が会員となり、地域の中で子育てをする有償の助けあい活動です。

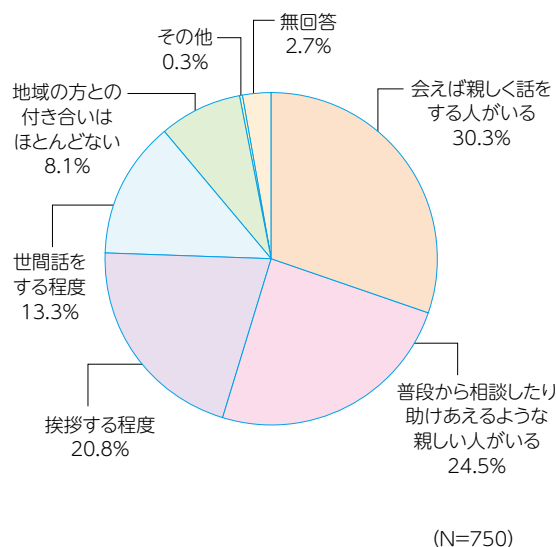
どちらも“困っている人の力になりたい!”というボランティア精神に基づき、無理なく続けられる助けあい活動として地域に定着しています。



アンケート結果（在住者・在勤者）

Q：あなたは地域の方とどのようなお付き合いをしていますか？

⇒「会えば親しく話をする人がある」（30.3%）が3割を超え、次いで「普段から相談したり助けあえるような親しい人がある」（24.5%）、「挨拶をする程度」（20.8%）、「世間話をする程度」（13.3%）となっている。



ポイント

- 普段から相談したり助けあえるような親しい人がある割合は全体の1/4程度で、「親しく話をする人がある」を合わせても全体の半数程度に過ぎない。

Q：あなたが地域で暮らす中で困りごとがあった際に相談したことがある人や窓口はどこですか？

⇒「中央区役所」（34.5％）が最も高くなっている。

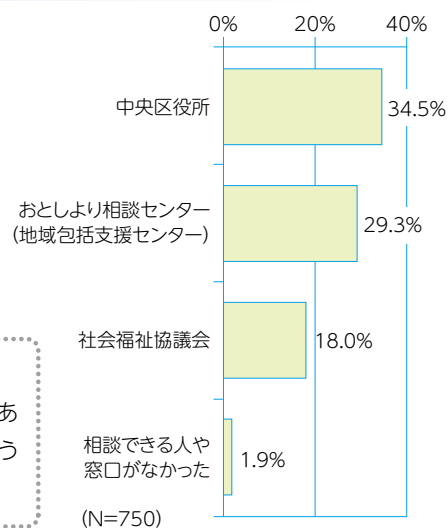
ポイント

- ・区役所やおとしより相談センター（※4）に比べて、社協に困りごとを相談したことがある人は少ない。

（※4）

【おとしより相談センター】

介護保険法で定められた地域包括支援センターの中央区版で区内には5カ所あります。すべての高齢者が安心して生活できるように、総合的な相談・支援を行うとともに、介護予防や虐待防止、認知症の啓発等にも取り組んでいます。



策定委員会での意見

- ・これから高齢化率は下がるが世帯数は増えるという統計データがあったが、さらに単身高齢者はますます増えるであろうと予測されている。家族がいないとできないことも増えてくるので、サポートする生活支援サービスがないと独居生活が困難になる。
- ・障害のある方は実際に接してみないとどういうことに困っているのかわからない（内部障害など）。障害者だけでなく、高齢者、若い人たちが互いの困難を共有し、つながれるとよい。
- ・障害者の就労支援事業に取り組んでいるが、10～15の事業所が集まって、セミナーを行っている。例年盛り上がっているが、障害者だけでなく、一般の方に向けた発信もしていきたい。近年、障害者手帳を持っていない方が相談や見学に来ることも多い。

ポイント

- ・外から見えない困りごとのある区民も多いことから、まず困りごとに気づき、それを相談できる人や場所につなげることが必要である。

導き出されたキーワード

➤「気づく」

…SOSを自ら出せない人や状況、異変に周囲が気づく。

➤「支援につなげる」

…困りごとやSOSに気づいたら、相談先や支援につなげる。

➤「相談できる人・場所」

…身近に相談できる人や場所があることで安心感につながる。

➤「輪を広げる」

…困りごとや相談ごとに対応できる人・場所・情報・つながりを地域の中で共有し、その輪を広げていく。



3 「第1期計画」から「第2期計画」へ

- 平成28(2016)年3月に策定した第1期「中央区地域福祉活動計画」では、基本理念として「新しいつながりと支えあいを創る～一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して～」を掲げ、3つの地域課題解決に向けて、4つの具体的な取り組みである「①地域活動に参加しやすい仕組みづくり」「②地域福祉の担い手の発掘・支援」「③企業とのタイアップ」「④気軽に立ち寄れる居場所・拠点づくり」ごとに、主として社会福祉協議会の事業を中心に計画を策定しました。
- 新たな「第2期中央区地域福祉活動計画」では、「第1期計画」策定後の「**地域共生社会**」の実現に向けた国、東京都、中央区の施策の動向を踏まえるとともに、本章で明らかとなってきた中央区の「**地域の現状と課題**」に鑑み、計画を組み立てます。
- 「第2期計画」の基本理念は、「第1期計画」の基本理念の方向性を継承しつつ、「地域共生社会」の実現に向けた多様性や地域の主体性をより一層重視したものとします。

○第1期の基本理念「新しいつながりと支えあいを創る～一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して～」



○第2期の基本理念「さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ～一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して～」

- 「第2期計画」は区民の皆さんが親しみやすく、理解しやすいことをコンセプトとし、「第1期計画」の3つの「地域課題」を継承しながら、「第2期計画」では3つの具体的なイメージとして「**目指す地域の姿**」を提示します。

～第1期の「地域課題」から第2期の「目指す地域の姿」へ～

地域のつながりづくり	⇒	1 多様なつながりのある地域
地域活動の活性化	⇒	2 みんなが活動に参加しやすい地域
制度の狭間への対応	⇒	3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

- 「第2期計画」は「全員参加型計画」の考え方のもと、3つの「目指す地域の姿」の実現に向けた7つの「活動目標」の「具体的な取り組み」として、最初に「**個人で…**」「**地域で…**」「**企業・団体で…**」という地域主体の具体的な「**取り組み例**」を掲げ、社会福祉協議会の役割や取り組みは地域主体の取り組みに連携して地域を支援するものであることが分かるようにします。
- 「第3章 計画の基本理念と目標」および「第4章 具体的な取り組み」をまとめた第2期計画の「**計画の体系**」は次頁のとおりです。

計画の

基本理念



さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ
一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して

目指す地域の姿

1 多様なつながりのある地域



2 みんなが活動に参加しやすい地域



3 「困った」に気づき、支援につなげる地域



活動目標

1 身近な地域での交流から始めよう

2 身近な場所に安心して集える場所・気軽に交流できる場所を増やそう

1 地域の活動を知り、気軽に関われるきっかけを増やそう

2 思いを行動につなげて、継続できるようにしよう

3 地域でのつながりを生かし、活動を充実させよう

1 困りごとを相談できる人や場所を増やそう

2 悩みや困りごとが支援につながるような幅を広げよう

取り組み

●個人で… ★地域

●まずご近所同士の挨拶
★多世代で交流できる
■地元の防災訓練やお

●関心のあるテーマの
★マンション集会所な
える場所として活用
■イベント等を通じて

●好きなことで無理の
★気軽に関われるきっ
みる
■身近なところから地

●活動を通して信頼で
★活動が続けられるよ
夫する
■同じような活動をし
や地域のことを話し

●身近にいる特技など
かけてみる
★同じような活動をして
機会を設け、活動を
■企業の持つネットワー

●困りごとは抱え込ま
してみる
★普段から顔の見える
■地域の相談窓口や公
き、活用できるよう

●地域のつながりや公
がら助けあう
★サロンに集まる人の
■利用者や関係者だけ
に幅広く情報を発信



体系

み例

社協に求められる役割

連携する 社会福祉協議会の取り組み

で… ■企業・団体で…

撓から始めてみる
機会をつくってみる
祭りなどに参加してみる

集いに参加してみる
を地域の人で集める
地域との交流を深める

- ◆交流の活性化やモチベーションの向上につながるような支援
- ◆多様な主体による地域に開かれた交流の場づくり
- ◆地域活動の拠点拡充
- ◆地域の安全・安心の基盤となるような居場所の機能強化
- ◆災害時における区民による助けあいを意識したつながりづくり

- 1 広報・啓発・情報発信
- 2 地域福祉活動への参加きっかけづくり
- 3 多世代交流の促進とアウトリーチ相談支援
- 4 区民同士の交流と見守り
- 5 居場所・地域活動拠点支援

ない活動を始め
かけづくりから始めて
域貢献を始めしてみる

きるような仲間をつくる
うな参加のあり方を工

ている企業同士で活動
合ってみる

のある人に参加を呼び

いる団体同士が話し合う
互いにサポートしあう
クを生かして取り組む

- ◆つなぐ・つながることを意識した地域ニーズの把握や情報提供の取り組み
- ◆活動者のスキルアップとモチベーションの向上や新たな活動者の養成・発掘のための情報発信とニーズ把握
- ◆社協のネットワークを生かした横断的なコーディネートや企画・運営サポートによる新しいつながりの創出

- 1 寄付・募金等による地域づくりの推進
- 2 広報・啓発・情報発信（再掲）
- 3 区民同士の交流と見守り（再掲）
- 4 支えあいを基盤とする地域づくり
- 5 区民同士の支えあい・助けあい
- 6 地域福祉活動への参加きっかけづくり（再掲）
- 7 多彩な活動主体のつながりとネットワークづくり
- 8 地域の課題解決に向けた取り組みを通じた地域づくり

ず信頼できる人に相談
信頼関係をつくる
的制度などを知ってお
にする

的制度などを活用しな
悩みや困りごとに気づく
でなく地域の一般向け
する

- ◆住民参加型の事業や関係機関との連携・協働による事業におけるアウトリーチの視点を持った取り組み
- ◆地域活動が気づきの場となるような働きかけ
- ◆区民の気づきを生かして新たな社会資源や社協事業を創出
- ◆マンション等多様な居住形態への積極的なアプローチ

- 1 就労を通じた社会参加支援
- 2 多世代交流とアウトリーチ相談支援（再掲）
- 3 制度の狭間や複合的な課題へのアプローチ
- 4 高齢者・障害者等の権利擁護
- 5 支えあいを基盤とする地域づくり（再掲）

第3章 計画の基本理念と目標



1 基本理念

- 第2期中央区地域福祉活動計画は、第1期計画の基本理念「新しいつながりと支えあいを創る」の方向性を継承しつつ、策定委員会での議論やアンケート・ヒアリング結果の分析等にもとづき、より多様性と地域住民の主体性がイメージしやすい「さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ～一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して～」とします。
- 中央区で生活するすべての人たち（住んでいる人・働いている人など）が、世代や居住歴を超えて、また障害の有無に関わらず、その人らしいそれぞれの形でつながりをもつことができる地域をはぐくんでいこう、という思いが込められています。

さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ

～一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して～



2 目指す地域の姿

基本理念を実現していくために、「目指す地域の姿」を以下の3つとします。

1 多様なつながりのある地域



地域でのつながり方が多様化する中で、身近なところで気軽に交流し、普段から支えあうことができるような「つながり」のある地域を目指します。

2 みんなが活動に参加しやすい地域



在住・在勤等を問わず、地域で生活しているすべての人が活動に関わりやすく、また活動している人や団体・事業所が活動を継続し、相互に連携しやすい地域を目指します。

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域



地域の中で困りごとを気軽に相談できる場所や人がいて安心できる、また自分では気づけなかったり声を上げられない人には、周囲が気づいて適切な支援につながるような地域を目指します。



1 多様なつながりのある地域

気軽に、身近に交流できる機会や場所があることで、一人一人が自分らしくつながることができ、普段から困りごとに気づいたり、助けあうこともできる地域を目指します。

活動目標

1

身近な地域での交流から始めよう

- 地域でのつながりが多様化する中で、自分らしく地域と関わるために、まずはできる範囲で、日頃の生活の中から交流を始めてみましょう。

(取り組み例)

●個人で…

- まずご近所同士の挨拶から始めてみる。
⇒マンションでエレベーターに乗ったとき
よく見かける人に出会ったら…



- まちを歩いて地域を再発見してみる。



★地域で…

- 多世代で交流できる機会をつくってみる。
⇒町会・自治会の行事や防災訓練などへの参加
- 昔から長く住んでいる人と新しく住み始めた人の交流を始めてみる。
- 普段から顔の見える関係づくりを意識する。

■企業・団体で…

- 地元の防災訓練やお祭りなどに参加してみる。
- 清掃活動など、まずは気軽にできることから地域との関係づくりを始めてみる。



身近な場所に安心して集える場所・気軽に交流できる場所を増やそう

- ・地域で生活する中で、自分にとって身近に感じられる場所、自分らしく安心して気軽に集える場所を増やしていきましょう。
- ・地域の居場所は、みんなが参加しやすく、参加する人が関心を持てるようなテーマを設定しましょう。

(取り組み例)

●個人で…

- ・関心のあるテーマの集いに参加してみる。
⇒防災、子育て、まちの歴史などをテーマとした集い
- ・近所で気になるサロンをのぞいてみる。

★地域で…

- ・マンションの集会室などを、地域 みんなで集える場所として活用する。
- ・多様な人が居心地よく集える場所づくりをこころがける。
⇒スタッフや参加者の性別が偏らないように配慮

親子向けサロンも
多様な性別の
スタッフで運営



男性がいると
自分も
参加しやすい!

■企業・団体で…

- ・イベント等を通じて地域との交流を深める。
⇒災害時に区と連携して、帰宅困難者向けに会社の一部を避難場所として開放
⇒社協に相談して会社の会議室の空いている時間を地域のサロン活動の場として提供

◆社協に求められる役割

- ・交流の活性化やモチベーションの向上につながるような支援
- ・多様な主体による地域に開かれた交流の場づくり
- ・地域活動の拠点拡充
- ・地域の安全・安心の基盤となるような居場所の機能強化
- ・災害時における区民による助けあいを意識したつながりづくり



◆社協で…

取組1 ▶ 広報・啓発・情報発信

広報紙「中央区社協だより」ボランティア情報紙「キャッチボール」「中央区サロンマップ」等の紙媒体、社協ホームページ、フェイスブック等の電子媒体など多様な媒体を活用した情報発信

方向性

- 多様な年齢層や価値観を持った区民の興味・関心を引く内容とするとともに、地域や地域で活動する団体に関する情報なども発信していきます。
- 高齢者や障害者などにも寄り添った情報提供ができるよう、さまざまな媒体の活用や提供方法の工夫を図っていきます。
- コロナ禍を踏まえ、情報の即時性や拡散性の高いフェイスブック等SNSによる情報提供の拡充を図るとともに、電子メディアになじみのない方にも必要な情報がしっかりと届くよう、紙媒体についても紙面づくりや配布方法等を考慮していきます。
- 「中央ぷらねっと」（中央区社会貢献企業連絡会）や「社会福祉法人連絡会」による地域貢献活動の紹介等、企業や事業所などの興味・関心を引くような情報提供を行います。
- 高層マンション等必要な情報が届きにくい居住形態の方、特に孤立が懸念される高齢者等に、確実に情報が届けられるように民生・児童委員と連携し、取り組みを進めていきます。

取組2 ▶ 地域福祉活動への参加きっかけづくり

「ボランティア入門講座」「場づくり入門講座」「健康福祉まつり」等、区民が地域福祉活動に参加するきっかけとなるような多様な取り組みの実施

方向性

- 各種講座については、タイムリーなテーマを取り上げるとともに、広報や講座・体験内容の充実を図り、さらに多くの方々に参加してもらい、地域福祉活動やボランティア活動への関心を高めていきます。
- 受講者同士の交流や意見交換を行う場や機会を増やし、受講者の意識向上やネットワーク化を推進します。
- 近年日本各地で発生している豪雨災害などを受けて、災害ボランティアへの関心が高まっていることから、「災害ボランティア関連講座」や「災害ボランティアセンター運営訓練」などの内容充実を図ります。
- コロナ禍を踏まえ、新しい生活様式に応じた講座やイベント等のあり方について検討していきます。
- 区や関係団体の各種講座などとも役割分担と連携を図りながら、区民が自分に合った形で安心して地域活動に参加できるきっかけづくりを拡充していきます。
- 「健康福祉まつり」については、福祉活動やボランティア活動について多くの区民、団体、グループ等が理解を深めるきっかけとしての本来の目的・趣旨が十分達成されているか、実行委員会や区とともに継続的に検証します。
- 子どもの頃から福祉活動やボランティア活動への関心を高めるために、「イナっこ教室」や「福祉体験講座」等において体験内容の充実を図ります。

「イナ」から「ボラ（ンティア）」へ 「夏休み福祉・ボランティア体験“イナっこ教室”」「福祉体験講座」

学校の夏休み期間中に、区内在住・在勤・在学の小学生以上を対象に、登録ボランティア団体や福祉施設などの協力を得て、「夏休み福祉・ボランティア体験“イナっこ教室”」を開催しています。「イナ」は出世魚「ボラ」の幼名です。ボランティア活動を体験して、多くの方に「イナ」っから「ボラ（ンティア）」になってほしいとの願いをこめています。



また、ボランティア活動や地域福祉活動に関心のある区内の学校や団体、グループなどに出向き、「福祉体験講座」を年間を通じて実施しています。福祉やボランティアについての講話を行う福祉入門講座のほか、講師ボランティアの協力のもと、点字、手話、アイマスク、車いす、シニアなどの体験講座を行っています。

取組3 ▶ 多世代交流の促進とアウトリーチ相談支援

「おとなりカフェ・ちょこっと相談会」の実施

方向性

- 誰もが気軽に身近なカフェに参加できたり、コーディネーターに相談できるようにするため、区との連携により月島地域の「勝どきデイルーム」のほか、京橋地域と日本橋地域でも「おとなりカフェ・ちょこっと相談会」が定期開催できるようにしていきます。
- 区民ボランティア等の参画とコーディネーターとの役割分担により、区民の多様なニーズに対応できるようにしていきます。
- 区民が身近な地域でさまざまな相談を気軽に受けられる、包括的な相談支援の拠点としての機能を充実させます。



取組4 ▶ 区民同士の交流と見守り

「ふれあい福祉委員会」「いきいき地域サロン」等の区民が主体的に行うサロン活動等の推進

方向性

- 身近な場所で区民が気軽に集まり、定期的に交流する見守りとふれあいの機会を増やすため、既存のサロン活動の支援だけでなく、地域におけるさまざまな主体による多様な活動の支援を充実していきます。
- 「高齢者通いの場」「認知症カフェ」^(※5)などの区が支援するサロン活動も含め、団体同士や活動メンバー同士の交流や意見交換の場を拡充し、区内のサロン活動のネットワーク化を促進していきます。
- ウイズコロナ・アフターコロナを見据えたサロン活動のあり方について検討を進めていきます。

(※5)

【認知症カフェ】

認知症のご本人やご家族、認知症に関心のある地域の方が、認知症の有無にかかわらず、気軽に集い、楽しい時間を過ごしながら、仲間づくりや情報交換、専門スタッフに相談ができる場です。おとしより相談センターなど区内7カ所で活動中です。

取組5 ▶ 居場所・地域活動拠点支援

「勝どきデイルーム」などにおける居場所づくりの支援

方向性

- 「勝どきデイルーム」では、さらに区民主体の多様なサロン活動が展開されるよう支援します。また、サロン活動を運営する団体や活動メンバー同士の連携を深め、いつでも誰もが気軽に立ち寄ることのできる「居場所づくり」を行っていきます。
- 「浜町多世代交流スペース はまるーむ」(令和3年度開設予定)については、地域住民からの意見を伺いながら、「勝どきデイルーム」と同様に区民主体の多様な地域活動が開催されるよう整備するとともに、社協による常設のアウトリーチ^(※6)相談拠点としての活用を検討します。
- 「さわやかワーク中央」が障害のある利用者にとって安心、安全な常設の居場所になっている点に着目し、地域の居場所としての活用の可能性についても幅広く検討していきます。

(※6)

【アウトリーチ】

英語で「手を伸ばす」という意味。生活上の困難を抱えているにもかかわらず支援に結びついていない方へ、支援者が積極的に働きかけて必要な情報や支援を届けるという支援のことで、地域に潜在するニーズへのアプローチの方法として用いられています。

2

みんなが活動に参加しやすい地域

さまざまな立場や年代、多様なライフスタイルや価値観の人たちが地域の活動を知り、気軽に関われるきっかけのある地域、また既に活動している人や団体同士がつながりやすく、活動を続けやすい地域を目指します。

活動目標

1

地域の活動を知り、気軽に関われるきっかけを増やそう

- 一人一人に合った多様な形で活動に関われるように、気軽に楽しく関われるきっかけを増やしていきましょう。

(取り組み例)

●個人で…

- 好きなことで無理のない範囲から活動始める。
- 「中央区サロンマップ」などを活用し、身近で開催されているサロンを探してみる。

★地域で…

- まずは活動を知ってもらうために「単発で」「体験型」など、気軽に関われるきっかけづくりを始めてみる。
- 参加者には、その人のできることや得意なことを生かしてもらう。
- 活動に「入りやすく、出やすい」など、自由な雰囲気をつくる。

認知症カフェの参加者に
できる範囲で手伝ってもらう



人に喜んでもらえて嬉しい!
また来たいな

■企業・団体で…

- 「まずは身近なところから」という意識で、地域貢献を始めてみる。
⇒清掃活動は「清掃したら気分がいい」と感じたり、近所の方から「ありがとう」と言われて気持ちよく活動を継続

朝、事業所の
周りを清掃
してみよう…



朝から清掃すると
爽やかで
続けたくなった

- テーマを決めて活動してみる。
⇒地域の関心を高めるため、地域内でウォークラリーを実施
- 自分たちの得意分野や本業、民間としての強みを生かした形で活動する。
⇒高齢者向けにパソコンやスマホの活用方法の講座を開催



活動目標

2

思いを行動につなげて、継続できるようにしよう

- ・地域や活動への思いが実際の行動につながる機会、またその思いや行動を続けていけるような工夫をしてみましょう。

(取り組み例)

●個人で…

- ・活動を通して、気が合ったり、信頼できるような仲間をたくさんつくる。
- ・仲間や関係者からよい刺激を受けたり、相談できるような関係性を築く。
- ・区や社協の支援制度が利用できないか相談してみる。

仲間ができると、
活動が続けるのが
楽しくなるわ



★地域で…

- ・活動が続けられるような参加のあり方を工夫する。
⇒「月1回」「単発」での参加もOK

お祭りの当日、
手伝える人を
募集します!



普段は仕事で忙しい
けど、月1回なら
私もできるかも



- ・活動が続けられるような動機づけをする。
⇒活動を一部有償化。参加賞、皆勤賞などの工夫

■企業・団体で…

- ・同じような活動をしている企業・団体同士で、活動や地域のことを話し合ってみる。
- ・活動の意義を明確にして、組織の中でその意義を伝える機会をつくる。
- ・活動が業務に与える影響や人材育成との兼ね合いについて再検討してみる。

会社としての
活動の意義を社員に
伝えよう



活動の意義が分かり
モチベーションが
アップ!

地域でのつながりを生かし、活動を充実させよう

- ・地域や活動に関わる人や事業所、団体同士のつながりを生かして、いま取り組んでいる活動をさらに充実・発展させていきましょう。
- ・お互いの情報交換や協力、地域資源の活用、ノウハウ共有などを大切にしましょう。

(取り組み例)

●個人で…

- ・身近にいる特技などのある人に参加を呼びかけてみる。
- ・区や社協にPRの方法などを相談してみる。



★地域で…

- ・同じような活動をしている団体同士が話し合う機会を設け、活動を互いにサポートしあう。
⇒サロン同士が開催日時を調整することで希望者は両方のサロンを利用
- ・日頃から活動団体同士が情報を共有できるようにする。

■企業・団体で…

- ・企業・団体の持つネットワークを生かして取り組む。
⇒企業による、取引先などの縁を生かした情報発信や活動者の募集
- ・地域のことを話し合い、アイデアを出し合う場を設ける。
⇒町会・自治会などの会合で、災害時の助けあいや日頃の備えについて協議

もし災害が起きたら
どうしよう…?



◆社協に求められる役割

- ・つなぐ・つながることを意識した地域ニーズの把握や情報提供の取り組み
- ・活動者のスキルアップとモチベーションの向上や新たな活動者の養成・発掘のための情報発信とニーズ把握
- ・社協のネットワークを生かした横断的なコーディネートや企画・運営サポートによる新しいつながりの創出



ニジノ



8

コラム

地域公益活動に取り組む社会福祉法人のネットワーク
「中央区社会福祉法人連絡会」

平成28年から始まった連絡会では、これまで区内の社会福祉法人の連携による2つの取り組みを実施してきました。「ボッチャ体験&福祉ちょこっと相談会」では、ユニバーサルスポーツ「ボッチャ」を通じた年齢や障害の有無にかかわらず交流できる場を、「福祉体験合宿」では、小中学生を対象に老人ホームや障害者施設での宿泊を通じた職場体験とその発表の場を提供しています。

コロナ禍により一時活動が中止となりましたが、地域のさまざまなニーズをキャッチしながら、それぞれの法人の特色を生かした活動を続けていきます。



◆社協で…

取組1 ▶ 寄付・募金等による地域づくりの推進

地域の活性化や地域づくり支援のための「共同募金」（歳末たすけあい運動、赤い羽根共同募金）その他寄付活動

方向性

- 寄せられた募金の助成・配分にあたっては、透明性と公平性の確保に努めるとともに、社協のネットワークを生かして新しい助成先・配分先の掘り起こしを進め、地域の活性化につなげます。
- 共同募金は町会・自治会、団体などを通じた最も身近な地域福祉活動であることから、さらに地域との協力関係を深めて取り組みやすい活動にするとともに、広く企業などへも働きかけていきます。
- 寄付受領にあたっては、寄付者・受贈者双方の満足度向上と地域福祉への貢献度を高めるため、広報の仕方やマッチングについて工夫していきます。

取組2 ▶ 広報・啓発・情報発信

広報紙「中央区社協だより」ボランティア情報紙「キャッチボール」「中央区サロンマップ」等の紙媒体、社協ホームページ、等の電子媒体など多様な媒体を活用した情報発信（再掲）

取組3 ▶ 区民同士の交流と見守り

「ふれあい福祉委員会」「いきいき地域サロン」等の区民が主体的に行うサロン活動等の推進（再掲）

取組4 ▶ 支えあいを基盤とする地域づくり

「地域支えあいづくり協議体（第1層）」「支えあいのまちづくり協議体（第2層）」の運営

方向性

- ・区と連携しながら、地域共生社会の実現に向けた「支えあいの仕組みづくり」や「地域のつながりづくり」について、世代や障害の有無等を超えて多様な主体が話し合う会議体を目指していきます。
- ・マンション等集合住宅を一つの生活圏域と捉え、特性や課題について幅広い視点からアセスメントを行うとともに、具体的な取り組みの立案や課題解決に向けた連携・協働のあり方について検討していきます。
- ・協議体で協議された内容等について、区民に情報提供するなどして周知を図り、広く区民からも意見を聴取する仕組みづくりを進めていきます。

ニジノ



9

コラム

「地域支えあいづくり協議体（第1層）・支えあいのまちづくり協議体（第2層）」

協議体は、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「地域共生社会」を目指して、高齢者の孤立防止や介護予防など日常生活を支える取り組みについて、地域で活動している多様な人たちが参画して話し合う場です。

「地域支えあいづくり協議体」では、区全体（第1層）で取り組むべき高齢者の課題について共有し、その解決に向けた話し合いを行っています。「支えあいのまちづくり協議体」では、地域（第2層＝京橋・日本橋・月島）ごとに、それぞれの地域特性を生かした取り組みや仕組みづくりについて話し合っています。



取組5 ▶ 区民同士の支えあい・助けあい

「虹のサービス」「ファミリー・サポート・センター」等地域で助けあう活動の推進

方向性

- ・提供会員等担い手側の不足状況を解消するため、多様な機会や情報媒体を活用し、多角的な広報活動を実施していきます。
- ・コロナ禍を踏まえ、活動中における感染予防対策や緊急時対応についてのマニュアル等を整備します。
- ・安全対策等の研修の充実を図ります。



取組6 ▶ 地域福祉活動への参加きっかけづくり

「ボランティア入門講座」「場づくり入門講座」「健康福祉まつり」等、区民が地域福祉活動に参加するきっかけとなるような多様な取り組みの実施（再掲）

取組7 ▶ 多様な活動主体のつながりとネットワークづくり

ボランティア活動の支援及びボランティア・地域貢献活動等に取り組む多様な主体による交流・連携の促進

方向性

- 引き続きボランティアが活動しやすいような環境の整備に努めるほか、ボランティア同士の交流・連携を促進し、ネットワーク化を図ることで、新しい活動の創出や潜在的な担い手の掘り起こし、既存の活動の充実等につなげていきます。
- 企業や在勤者にとって無理のない範囲で活動でき、地域に関心を持ってもらえるような取り組みの提案を行っていきます。

取組8 ▶ 地域の課題解決に向けた取り組みを通じた地域づくり

「地域福祉コーディネーター（CSW）」「生活支援コーディネーター」による地域づくり支援

方向性

- 地域の課題解決に向けた取り組みを通じて、新しいつながりづくりや社会資源の創出、埋もれている既存資源の掘り起こし等を図り、生活圏域ごとに地域課題を解決する体制を整備していきます。

ニジノ



10

コラム

「地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター」

「地域福祉コーディネーター」は、いわゆるゴミ屋敷やダブルケア（介護と子育ての同時進行）、8050問題（高齢化した親と引きこもりが長期化した中高年の子の問題）といった制度の狭間にある課題に、区民や関係機関・団体の協力を得ながら取り組むことを通じて、地域の課題解決力の向上を目指しています。また自ら地域に出向いて相談支援を行う「おとなりカフェ・ちょこっと相談会」を開催し、地域の気になることをキャッチし、区民同士の交流から始まる支えあいの仕組みづくりに取り組んでいます。

「生活支援コーディネーター」は、高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、特に介護予防や孤立防止を目的とした新たな社会資源の開発やネットワークの構築に力を入れています。



3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

普段は問題なく地域生活を送れていても、何かのきっかけで困った状況に陥る可能性があります。困りごとがあったときに気軽に相談できる人がいたり、相談できる場所があることが大切です。また困っている人が自ら助けを求められなくても、周囲の人や必要な情報、地域のつながりによって適切な支援が受けられ、区民一人一人が安全・安心に暮らすことができる地域を目指します。

活動目標

1

困りごとを相談できる人や場所を増やそう

- ・ いざというときに困りごとを相談したり、解決につながるきっかけを得られるような人とのつながりや、支援につながる場所を知っておきましょう。

(取り組み例)

●個人で…

- ・ 何か困りごとがあった場合には、抱え込まずに信頼できる人に相談してみる。
- ・ 困っていても自分ではSOSを出せない人がいることを感じたら、本人に代わって支援者につなげたり、区や社協に相談する。

あのおじいさん、
最近見かけないけど…

家族がいるから平気かな？
でも…声かけてみよう！



相談窓口で
話してみたら、
支援につながった！



★地域で…

- ・ いざというときにつながれるよう、普段から顔の見える信頼関係をつくる。
- ・ 相談支援や専門的な支援を行う機関・人の認知度を高める。

■企業・団体で…

- ・ 地域の中の相談窓口や公的制度・サービス等を知っておき、いざというときには活用できるようにしておく。
⇒区や社協の「出前講座」の活用
- ・ 区と高齢者の見守り協定※を結ぶ。

※高齢者の見守り活動に関する協定：
中央区では地域見守りネットワーク構築の一環として、各種事業所と「高齢者の見守り活動に関する協定書」を締結しています。



活動目標

2

悩みや困りごとが支援につながるような輪を広げよう

- ・悩みや困りごとを個人の力で解決することが難しい場合や、誰かに相談したり、自分からSOSを発信したりすることが難しい場合でも、必要な情報や支援のネットワークにつながる、または周囲の人が気づいて支援につながるような地域を目指します。

(取り組み例)

●個人で…

- ・地域のつながりや公的な制度・サービスなども活用しながら助けあう。
⇒子どもの預かりで困ったら、ファミリー・サポート・センターやママ友などに相談

親が急病になってしまって、
どうしよう…



大変ですね!
お子さんを
預かれますよ

★地域で…

- ・サロンに集まる人の悩みや困りごとに気づくように心のアンテナを張る。
- ・孤立しがちな人や悩んでいる人も、気軽に立ち寄れるような居場所をつくる。
- ・地域の中で、支援に関わる人・情報・ネットワークを生かす。
⇒災害時に手助けが必要な人を、日頃の近所付き合いや防災訓練で把握

地域のみんなで
避難訓練を
してみよう!



地域にいる
支援が必要な
人の存在に
気づけた

■企業・団体で…

- ・利用者や関係者だけではなく、地域の一般向けに幅広く情報を発信する。
⇒障害者の就労支援事業者が障害者手帳を持たない人にも情報発信
⇒業務に関する広報の中で地域貢献活動についても情報発信

◆社協に求められる役割

- ・住民参加型の事業や関係機関との連携・協働による事業におけるアウトリーチの視点を持った取り組み
- ・地域活動が気づきの場となるような働きかけ
- ・区民の気づきを生かして新たな社会資源や社協事業を創出
- ・マンション等多様な居住形態への積極的なアプローチ

◆社協で…

取組1 ▶ 就労を通じた社会参加支援

「シルバーワーク中央」「中央区障害者就労支援センター」における高齢者・障害者の就労支援

方向性

- 年齢や障害種別等にかかわらず、就労を通じた社会参加による自己実現に向けて、社協の強みを生かした地域資源の活用や多様なネットワークとの柔軟な連携・協働を進めていきます。
- さまざまな就労のニーズに対応できるようにその場に即した手法を用い、サポート体制を拡充していきます。

ニジノ



11

コラム

障害のある働く人のいこいの場 「ニコニコドットコム」

「ニコニコドットコム」は、中央区障害者就労支援センターに登録されている方が月1回アフター5に自由に集まることのできる場です。

みんなと一緒にごはんを食べたり、おしゃべりをしたり、ゲームや音楽を楽しんだり、みんなの元気な顔を見るだけでよかったり。それぞれが、思い思いに楽しいひとときを過ごすことで、ストレス発散や仕事のモチベーションアップにもなっています。





取組2 ▶ 多世代交流とアウトリーチ相談支援

おとなりカフェ・ちょこっと相談会の実施（再掲）

取組3 ▶ 制度の狭間や複合的な課題へのアプローチ

「地域福祉コーディネーター（CSW）」「生活支援コーディネーター」による個人・地域へのアウトリーチ支援

方向性

- 制度の狭間にある個別課題（8050問題、ダブルケア、ゴミ屋敷問題等）や複合的な課題の解決にあたり、区民や行政をはじめさまざまな関係機関・団体と連携・協働することにより、個別支援から地域支援へ、さらにその先にある地域の課題解決力向上へと輪を広げていきます。
- 困りごとや孤立状態が潜在化しやすい高層マンション等の居住者に向けたアウトリーチ支援を進めるため、民生・児童委員などと連携し、アプローチの方法や新しい連携先とのつながりづくり等を工夫していきます。

取組4 ▶ 高齢者・障害者等の権利擁護

成年後見支援センター「すてっぴ中央」による成年後見制度の利用促進と権利擁護機能の充実・強化

方向性

- 本区における成年後見制度利用促進の「中核機関」^(※7)として、制度理解向上のための普及・啓発活動や相談支援体制の強化につながる地域連携ネットワークの構築、社会貢献型後見人の養成等による担い手の確保等の取り組みを進めていきます。
- 社会貢献型後見人養成講座の修了者による権利擁護支援事業の生活支援員としての活動を充実させることにより、後見人候補者としての資質向上を図ります。

(※7)

【成年後見支援事業（成年後見制度）】

認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分な方が、安心してその人らしい生活を送れるよう援助者（成年後見人等）を選び、本人の権利と財産を守る制度です。

平成28年に、共生社会の実現に向けて制度の利用を促すため、「成年後見制度利用促進法」が施行されたことに伴い、国が定めた基本計画に基づき、中央区では「中央区成年後見制度利用促進計画」を策定しています。

成年後見支援センター「すてっぴ中央」は、区の計画に基づく利用促進の中核機関として、成年後見制度の普及・啓発、相談対応、成年後見制度を利用するための支援等を行っています。

取組5 ▶ 支えあいを基盤とする地域づくり

「地域支えあいづくり協議体（第1層）」「支えあいのまちづくり協議体（第2層）」の運営（再掲）

第5章 計画の推進に向けて

1 計画を支える社会福祉協議会の役割

- 地域福祉活動計画の実現に向けて、社会福祉協議会は、社会福祉法人として自ら福祉サービスを提供するなどの活動に取り組む一方で、地域福祉推進の中心的役割を担い、区民、地域の活動団体、事業者、行政等とのコーディネーターとしての機能を果たしていきます。
- 地域でのネットワークづくりに向けた地域住民の話しあいの場づくりを進めるほか、区民の主体的な活動との関わりの中から地域の多様な課題を把握し、必要な支援につなぐなど、課題に対応した事業を展開します。

社協に求められる役割



①多様なつながりのある地域

- ⇒ 交流の活性化やモチベーションの向上につながるような支援
 - 多様な主体による地域に開かれた交流の場づくり
 - 地域活動の拠点拡充
 - 地域の安全・安心の基盤となるような居場所の機能強化
 - 災害時における区民による助けあいを意識したつながりづくり

②みんなが活動に参加しやすい地域

- ⇒ つなぐ・つながることを意識した地域ニーズの把握や情報提供の取り組み
 - 活動者のスキルアップとモチベーションの向上や新たな活動者の養成・発掘のための情報発信とニーズ把握
 - 社協のネットワークを生かした横断的なコーディネートや企画・運営サポートによる新しいつながりの創出

③「困った」に気づき、支援につなげる地域

- ⇒ 住民参加型の事業や関係機関との連携・協働による事業におけるアウトリーチの視点を持った取り組み
 - 地域活動が気づきの場となるような働きかけ
 - 区民の気づきを生かして新たな社会資源や社協事業を創出
 - マンション等多様な居住形態への積極的なアプローチ



2 ウイズコロナ・アフターコロナにおける計画の推進について

地域ではコロナ禍の長期化により、多くの高齢者や障害のある方が今でも不安やひきこもりがちな生活を余儀なくされています。また地域の多様な支えあい活動も、感染拡大防止のために活動内容によっては自粛や縮小を避けられない状況が続いています。

しかしウィズコロナ・アフターコロナの時代にあっても、これまではぐくんできた区民同士・関係者の絆や地域の基盤を活かし、すべての人が違いやハンディを越えてつながりあえ、支えあえる「新たな地域づくり」に向けた取り組みが強く求められることに変わりはありません。むしろこういうときだからこそ、計画の基本理念である「さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ」を踏まえた試み、たとえば十分な感染防止策をとりながらのフレイル予防の活動や離れていてもつながれる仕組み（手紙やICTの活用による取り組み等）、あるいは地域に広く呼びかけて必要な資金を募る取り組みなどが求められています。

ニジノ



12

コラム

新しいつながりづくりに向けて

コロナ禍でも可能な新たなボランティア活動として、“自宅でできるボランティア”をテーマに、例年「イナっこ教室」(P34コラム7)でご協力いただいている福祉施設への励ましのメッセージやイラストを公募し、ポスター化する「イナっこ教室エール便」を実施しました。



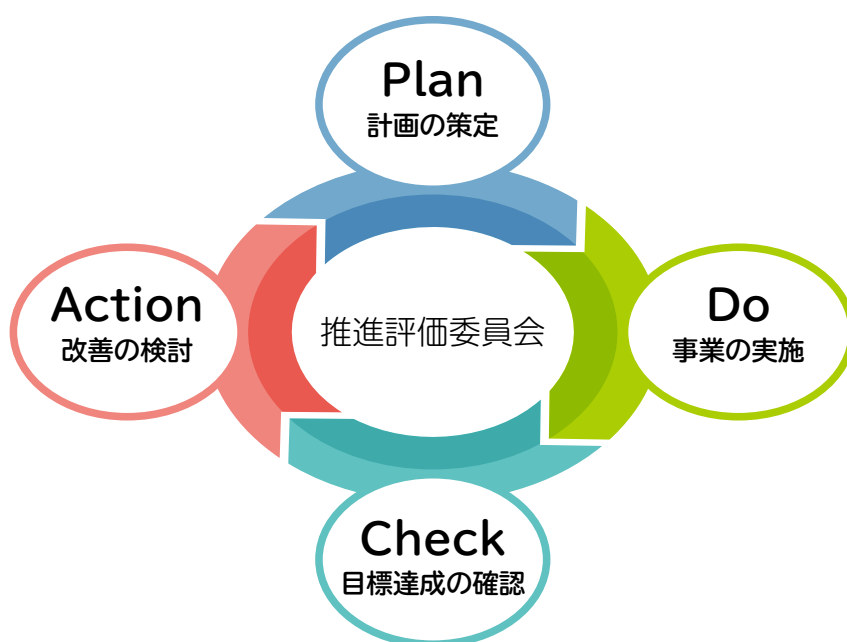
また、対面が難しいコロナ禍での地域福祉活動の一助になれば…とオンラインによるつながりを活動団体の皆さんに体験していただく講座を開催しました。

どちらも“離れていてもつながれる”取り組みとして、参加された皆さんに好評でした。



3 計画の進行管理と評価

- 計画について実効性を高め、円滑で確実な実施を図るためには、適切に進行を管理する体制が必要です。
- 計画に関する取り組みの進捗状況や、達成度を定期的に把握し、必要に応じて適宜見直し等を行い、よりよい活動や取り組みを推進する「PDCAサイクル」（Plan - Do - Check - Actionサイクル）によって、計画を推進していきます。



- 計画を区民や事業所・団体等の主体的な参加や協力のもとに連携・協働して推進していくためには、計画の達成度を評価し、一定の期間において計画を見直すことが大切です。
- この進行管理等を含む評価を、「推進評価委員会」(※)での審議や、計画期間中の中間見直し（3年目に実施）により行います。

※ 推進評価委員会

この計画を確実・効果的に推進するために設置する委員会で、計画が理念や目標に向かって実行に移されているか、地域のニーズや変化に対応した取り組みとなっているか、成果を挙げているか等計画の進捗状況についての確認・評価・提言を行う組織です。

第1章

計画の策定に
あたって

第2章

地域の現状と
課題

第3章

計画の基本理念と
目標

第4章

具体的な
取り組み

第5章

計画の推進に
向けて

資料編





1 中央区地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 中央区地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）の策定に向けた検討を行うため、社会福祉法人中央区社会福祉協議会（以下「協議会」という。）に中央区地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は次に掲げる事項について協議及び検討を行い、その結果を協議会会長（以下「会長」という。）に報告する。

- 一 地域福祉活動計画の策定に関すること。
- 二 その他地域福祉活動の推進に関し必要なこと。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者のうちから、会長が委嘱する20名以内の委員をもって構成する。

- 一 学識経験者
- 二 町会・自治会関係者
- 三 民生・児童委員
- 四 福祉施設・団体関係者
- 五 ボランティア・福祉サービス関係者
- 六 区内事業者
- 七 関係行政機関職員
- 八 協議会職員
- 九 その他会長が必要と認めた者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から翌年度末までとする。

2 委員に欠員が生じたことにより補充した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。
- 3 委員会に副委員長1名を置き、委員のうちから委員長が指名する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

(意見聴取)

第7条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者に出席を求め、説明、意見等を聞くことができる。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、中央区社会福祉協議会事務局が処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成26年10月1日から施行する。

附 則（令和元年6月18日会長決裁 文言等の整理）

この要綱は、令和元年7月1日から施行する。



2 第2期中央区地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

区 分	氏 名	所 属 等
学識経験者	委員長 川 上 富 雄	駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻教授
町会・自治会	副委員長 松 岡 誠一郎	京橋地域町会連合会
民生・児童委員	鈴 木 英 子	京橋地域民生・児童委員協議会
	山 崎 勇	日本橋地域民生・児童委員協議会
	中 西 幸 二	月島地域民生・児童委員協議会
福祉施設・ 団体関係者	岩 崎 く み	(高齢) マイホームはるみ
	小 林 哲	(障害) レインボーハウス明石
	渡 辺 恵美子	(高齢) 月島おとしより相談センター (令和元年7月5日～令和2年2月26日)
	當 山 貴 子	(高齢) 月島おとしより相談センター (令和2年2月27日～令和3年3月31日)
	相 澤 俊 一	(障害) 中央区障害者団体連絡協議会
	村 田 美 緒	(子ども) みちてる保育園
	杉 原 志 保	(支援団体) 協働ステーション中央
区内事業者	五十嵐 公 一	清水建設株式会社
ボランティア・ 福祉サービス関係者	金 井 良	専門学校 東京医療学院
	下 川 由美子	市民後見人
	箕 輪 慎	傾聴ボランティアグループ うさぎの会
	佐 藤 栄 司	コンフィデンス日本橋
行 政	田 中 智 彦	中央区役所福祉保健部長
社 協	古田島 幹 雄	中央区社会福祉協議会事務局長

3 策定の経緯

	日 程	議 題
令和 元 年 度	第1回 7月5日	<ul style="list-style-type: none"> ●委員長・副委員長の選出 ●第2期中央区地域福祉活動計画策定にあたって ●第1期中央区地域福祉活動計画の取り組み状況と推進評価について ●第2期中央区地域福祉活動計画策定のスケジュールについて
	第2回 9月27日	<ul style="list-style-type: none"> ●第1期中央区地域福祉活動計画の進捗状況報告及び評価 ●統計資料から見る中央区の現状 ●第1期中央区地域福祉活動計画における残された課題 ●アンケート・ヒアリングの実施について
	第3回 2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ●第2期中央区地域福祉活動計画策定に向けたアンケート・ヒアリング調査結果について ●これまでの検討の振り返り ●次期計画につながる課題の整理と取り組みの方向性 ●計画期間について
令和 2 年 度	第4回 8月31日	<ul style="list-style-type: none"> ●第1期中央区地域福祉活動計画推進評価報告書（案）について ●区内事業所（中央区商店街連合会・中央区工業団体連合会）向けアンケート集計結果報告 ●第2期中央区地域福祉活動計画体系骨子案について ●グループ別討議（取り組み内容の検討）
	第5回 10月23日	<ul style="list-style-type: none"> ●第2期中央区地域福祉活動計画（骨子案）について
	第6回 12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ●第2期中央区地域福祉活動計画（素案）について
	第7回 2月15日	<ul style="list-style-type: none"> ●第2期中央区地域福祉活動計画（案）について ●パブリックコメント実施結果報告 ●推進評価委員会の設置について



4 事務局・プロジェクトチーム名簿

中央区地域福祉活動計画策定委員会事務局職員名簿

(H31.4.1～R2.3.31)

所 属	役職名	氏 名
管 理 部	部 長	古田島 幹 雄 (H31.4.1～R1.6.13)
	地域ささえあい 担当部長	岸 雅 典 (H31.4.1～R1.6.13)
	部 長	岸 雅 典 (R1.6.14～R2.3.31)
	庶務課長	龍 佑企子
	主任主事	片 桐 義 晴
	主 事	石 井 佐由三
在宅福祉サービス部	部 長	井 上 一 雄
ボランティア・ 区民活動センター	所 長	平 沢 康 裕
障害者就労促進部	部 長	有 賀 重 光
(株)地域計画連合	副主任研究員	田 口 香 子
(株)地域計画連合	研究員	石 山 紘 己

(R2.4.1～R3.3.31)

所 属	役職名	氏 名
管 理 部	部 長	岸 雅 典
	庶務課長	龍 佑企子
	活動計画等担当課長	杉 村 美矢子
	主任主事	石 井 佐由三
在宅福祉サービス部	部 長	井 上 一 雄
ボランティア・ 区民活動センター	所 長	有 賀 重 光
障害者就労促進部	部 長	佐 野 浩 美
(株)地域計画連合	副主任研究員	田 口 香 子
(株)地域計画連合	研究員	石 山 紘 己

中央区地域福祉活動計画検討プロジェクトチーム職員名簿

(H31.4.1～R2.3.31)

所 属	役職名	氏 名
管 理 部	庶務課長	龍 佑企子
	主任主事	片 桐 義 晴
	主 事	石 井 佐由三
	主 事	吉 田 美 雪
在宅福祉サービス部	推進課長	山 田 英 子
	成年後見支援 センター所長	安 部 信 之
	主 事	仲 田 彩 乃
ボランティア・ 区民活動センター	推進課長	八 木 英 之
	主 事	岩 倉 弘 樹
障害者就労促進部	担当課長	和 知 智 一
	主任主事	浅 野 和 人

(R2.4.1～R3.3.31)

所 属	役職名	氏 名
管 理 部	庶務課長	龍 佑企子
	活動計画等担当課長	杉 村 美矢子
	地域ささえあい課長	片 桐 義 晴
	主任主事	石 井 佐由三
在宅福祉サービス部	推進課長	山 田 英 子
	成年後見支援 センター所長	安 部 信 之
ボランティア・ 区民活動センター	推進課長	八 木 英 之
障害者就労促進部	担当課長	和 知 智 一

5 アンケート・ヒアリング調査等の実施

(1) アンケート調査の実施概要

☑ 在住者・在勤者向けアンケート調査

●目的

本調査は、中央区における地域福祉のさらなる発展及び第1期計画の振り返り・第2期計画の策定に向け、区民等を対象に、主に以下を把握することを目的として行った。

①地域について

区民の考える「地域」の範囲、地域に対する愛着、現在の地域での付き合い、現在の地域での活動や活動参加に必要なこと、困ったときの相談先等

②地域における「助けあい・支えあい」について

地域での付き合いに対する意向、地域生活であつたらいいと思う活動・参加したい活動、地域活動に参加しやすくなるための条件

●調査方法

調査対象	調査方法	調査期間
社会福祉協議会会員、社会福祉協議会で実施する講座参加者等、区内のマンション（3カ所）居住者	直接配布、ポスティング、WEBアンケート	令和元年11月16日 ～12月12日

●回収結果

直接配布、ポスティング

配布数	回収数	回収率
2,361票	707票	29.9%

WEBアンケート

回答数
43票



☑ 区内事業所（一般事業所）向けアンケート調査

●目的

本調査は、区内の一般事業所を対象に、主に以下を把握することを目的として行った。

・地域貢献活動について

現在取り組んでいる活動、活動のための工夫、活動上の課題、継続のための支援、今後取り組んでみたい活動等

●調査方法

調査対象	調査方法	調査期間
社会福祉協議会で実施した企業向けセミナー参加企業、さわやかワーク中央関連企業、法人会員・寄付企業	直接配布、郵送	令和元年 11 月 12 日 ～ 12 月 12 日

●回収結果

配布数	回収数	回収率
163 票	52 票	31.9%

☑ 区内事業所（中央区商店街連合会・中央区工業団体連合会）向けアンケート調査

●目的

本調査は、区内事業所（中央区商店街連合会・中央区工業団体連合会）を対象に、主に以下を把握することを目的として行った。

・地域貢献活動について

現在取り組んでいる活動（活動していない場合は、その理由）、新たに取り組みたい活動、活動の開始や継続のための支援

●調査方法

調査対象	調査方法	調査期間
中央区商店街連合会・中央区工業団体連合会加盟事業所	郵送	令和 2 年 3 月 26 日 ～ 4 月 30 日

●回収結果

配布数	回収数	回収率
121 票	52 票	43.0%

(2) ヒアリング調査の実施概要

●目的

本調査は、地域で活動している団体や企業を対象に、活動状況や地域の課題・資源、今後の活動の方向性等について把握することを目的として行った。

●実施期間・調査対象等

調査対象	調査期間
①地域活動団体 6 団体 ②中央ぶらねっと参加企業 4 企業	①令和元年 11 月 6 日～12 月 23 日 ②令和元年 11 月 26 日～令和 2 年 1 月 22 日

(3) マンション居住者との意見交換会

●目的

本調査は、区内 3 地域のマンション居住者を対象に、地域におけるつながりや活動の状況・課題、今後の意向等について把握することを目的として行った。

●実施期間・調査対象等

調査対象	調査期間
区内 3 カ所のマンション	令和 2 年 1 月 23 日～2 月 19 日

(4) 社会福祉協議会に寄せられた相談内容の分類

●目的

本調査は、社協に寄せられた地域の相談内容を元に、その内容（相談者・相談内容等）について分類・整理し、地域課題を検討する際の参考資料とすることを目的として行った。

●実施期間・調査対象等

調査対象	調査方法	調査期間
社会福祉協議会に寄せられた相談内容	各課が社協内の相談記録シート（情報共有シート）に記録	平成 29 年 4 月 6 日 ～令和元年 6 月 27 日

(5) アンケート結果調査データ

※「基数」：回答者数の構成比を求める母数であり、回答数の合計値とは一致しない場合がある。

☑ 在住者・在勤者向けアンケート結果 調査データ（記述回答、設問は除く）

問1 性別を教えてください。

項目	回答数	構成比
男性	269	35.9%
女性	461	61.5%
無回答	20	2.7%
基数	750	100.0%

問2 年齢層を教えてください。

項目	回答数	構成比
10代	2	0.3%
20代	8	1.1%
30代	54	7.2%
40代	78	10.4%
50代	92	12.3%
60代	122	16.3%
70代	219	29.2%
80歳以上	169	22.5%
無回答	6	0.8%
基数	750	100.0%

問3 現在の職業を教えてください。

項目	回答数	構成比
会社員・公務員・団体職員	170	22.7%
自営業	97	12.9%
パート・アルバイト	66	8.8%
学生	2	0.3%
家事専業	106	14.1%
無職	260	34.7%
その他	39	5.2%
無回答	10	1.3%
基数	750	100.0%

問4 中央区にどれくらいお住まいですか。

項目	回答数	構成比
1年未満	19	2.5%
1年以上5年未満	48	6.4%
5年以上10年未満	57	7.6%
10年以上20年未満	120	16.0%
20年以上40年未満	88	11.7%
40年以上	355	47.3%
区外在住	57	7.6%
無回答	6	0.8%
基数	750	100.0%

問5 お住まいの地域を教えてください。

項目	回答数	構成比
京橋地域	208	27.7%
日本橋地域	208	27.7%
月島地域	268	35.7%
その他	43	5.7%
無回答	23	3.1%
基数	750	100.0%

問6 お住まいの住居形態を教えてください。

項目	回答数	構成比
一戸建て	194	25.9%
分譲マンション	321	42.8%
貸マンション・アパート	200	26.7%
その他（下宿・社宅など）	25	3.3%
無回答	10	1.3%
基数	750	100.0%

問7 世帯構成を教えてください。

項 目	回答数	構成比
ひとり暮らし	201	26.8%
夫婦のみ (どちらかもしくは 2人とも65歳未満)	89	11.9%
夫婦のみ (2人とも65歳以上)	139	18.5%
親子同居(二世世代家族)	236	31.5%
親と子と孫の同居 (三世世代家族)	18	2.4%
その他	57	7.6%
無回答	10	1.3%
基数	750	100.0%

問8 中央区社会福祉協議会(中央区社協)をご存知ですか。

項 目	回答数	構成比
知っている	586	78.1%
知らない	143	19.1%
無回答	21	2.8%
基数	750	100.0%

問9 あなたは以下のどの地域活動に参加していますか。(いくつでも回答)

項 目	回答数	構成比
町会・自治会	262	34.9%
高齢者クラブ	96	12.8%
子ども会	8	1.1%
PTA活動	37	4.9%
お祭り	172	22.9%
障害者団体等の活動	59	7.9%
地域のボランティア活動	137	18.3%
地域のサークル活動	78	10.4%
地域・マンション内の 防災・防犯訓練	196	26.1%
以前参加していた	62	8.3%
参加したことがない	187	24.9%
その他	28	3.7%
無回答	15	2.0%
基数	750	100.0%

問10 あなたが考える「地域」の範囲は次のどれですか。

項 目	回答数	構成比
隣・近所	58	7.7%
マンション等集合住宅	94	12.5%
町会・自治会など	268	35.7%
小学校区	28	3.7%
中学校区	12	1.6%
地区 (京橋地域・日本橋地域・月島地域)	171	22.8%
中央区全体	63	8.4%
その他	12	1.6%
無回答	44	5.9%
基数	750	100.0%

問11 あなたの「地域愛」をハートの数で表すといくつですか。

項 目	回答数	構成比
1つ	59	7.9%
2つ	86	11.5%
3つ	192	25.6%
4つ	172	22.9%
5つ	168	22.4%
無回答	73	9.7%
基数	750	100.0%

問12-1 あなたは地域の方とどのようなお付き合いをしていますか。

項 目	回答数	構成比
普段から相談したり助け あえるような親しい人がいる	184	24.5%
会えば親しく話を する人がいる	227	30.3%
世間話をする程度	100	13.3%
挨拶をする程度	156	20.8%
地域の方との付き合いは ほとんどない	61	8.1%
その他	2	0.3%
無回答	20	2.7%
基数	750	100.0%



問12-2

【12-1で「地域の方との付き合いはほとんどない」と答えた人に】
その理由に最も近いものは何ですか。

項 目	回答数	構成比
日中、仕事などで家にいないので 知り合う機会がない	20	32.8%
地域の方との付き合いは したいと思うが、仲間に入りづらい	4	6.6%
付き合いをはじめる きっかけがない	14	23.0%
地域の方と付き合いをしたい と思わない	7	11.5%
もともと地域の方との付き合いが ほとんどないところである	9	14.8%
その他	3	4.9%
無回答	4	6.6%
基数	61	100.0%

問13

あなたは地域の方との付き合いはどの程度が
望ましいと考えますか。

項 目	回答数	構成比
普段から相談したり 助けあえるような付き合い	211	28.1%
親しく話ができるような 付き合い	182	24.3%
世間話をする程度の付き合い	88	11.7%
災害や急病など、いざという時に 助けあえる程度の付き合い	181	24.1%
挨拶をする程度の付き合い	49	6.5%
付き合いはしたくない	8	1.1%
その他	7	0.9%
無回答	24	3.2%
基数	750	100.0%

問14-1

地域の中で、助けたり、助けられたりするこ
とが必要だと思いますか。

項 目	回答数	構成比
とても必要である	301	40.1%
時には必要である	413	55.1%
あまり必要ではない	22	2.9%
必要ではない	4	0.5%
無回答	10	1.3%
基数	750	100.0%

問14-2

【14-1で「とても必要」「時には必要」と答
えた人に】それはなぜですか。

項 目	回答数	構成比
人との関わりは重要である	253	35.4%
自分の問題は自分だけでは 解決できない	44	6.2%
困っているときに助けあうのは当然	290	40.6%
公的なサービス・有料の サービスだけでは不十分	64	9.0%
家族・友人・知人との 結びつきだけでは不十分	42	5.9%
無回答	21	2.9%
基数	714	100.0%

問14-3

【問14-1で「あまり必要ではない」「必要では
ない」と答えた人に】それはなぜですか。

項 目	回答数	構成比
プライバシーに踏みこむのは よくない	5	19.2%
面倒である	4	15.4%
自分の問題は自分で 解決した方がよい	5	19.2%
家族・友人・知人との 結びつきで十分	3	11.5%
公的なサービス、有料の サービスで十分	4	15.4%
地域の助けあいには 期待できない	3	11.5%
その他	1	3.8%
無回答	1	3.8%
基数	26	100.0%

問15

今の地域生活で、あったらいいなと思う活動はありますか。(2つまで回答)

項 目	回答数	構成比
地域での声かけ・見守り活動	234	31.2%
地域の防災活動	144	19.2%
高齢者や障害者のための居場所づくり	126	16.8%
地域の防犯活動	94	12.5%
日常のちょっとした困りごとのお手伝い	144	19.2%
高齢者・親・子どもなどの世代間交流	87	11.6%
障害のある方との交流	18	2.4%
子どもの見守り・居場所づくり	83	11.1%
同世代住民同士の交流	63	8.4%
まちの美化・環境整備	101	13.5%
地域の懇談会	50	6.7%
特にない	52	6.9%
その他	21	2.8%
無回答	32	4.3%
基数	750	100.0%

問16

今の地域生活で、「自分も参加したい」と思う活動はありますか。(2つまで回答)

項 目	回答数	構成比
地域での声かけ・見守り活動	145	19.3%
地域の防災活動	124	16.5%
高齢者や障害者のための居場所づくり	93	12.4%
地域の防犯活動	53	7.1%
日常のちょっとした困りごとのお手伝い	137	18.3%
高齢者・親・子どもなどの世代間交流	72	9.6%
障害のある方との交流	26	3.5%
子どもの見守り・居場所づくり	76	10.1%
同世代住民同士の交流	78	10.4%
まちの美化・環境整備	107	14.3%
地域の懇談会	55	7.3%
特にない	115	15.3%
その他	34	4.5%
無回答	41	5.5%
基数	750	100.0%

問17

今後、地域で活動に参加する場合、どのような条件があれば参加しやすいですか。(2つまで回答)

項 目	回答数	構成比
時間や期間にあまりしばられない	334	44.5%
身近なところで活動ができる	228	30.4%
身体的な負担が少ない	106	14.1%
友人等と一緒に参加できる	40	5.3%
同世代と交流できる	32	4.3%
異なる世代と交流できる	33	4.4%
金銭的な負担が少ない	97	12.9%
適切なリーダーや指導者がいる	92	12.3%
活動に必要なスキルや知識を学ぶ機会がある	66	8.8%
活動内容について分かりやすい情報提供がある	83	11.1%
自分の興味や活動条件と、実際の活動をマッチングしてくれる支援制度がある	70	9.3%
その他	11	1.5%
どのような条件でもできない	22	2.9%
分からない	39	5.2%
無回答	48	6.4%
基数	750	100.0%

問18

あなたが地域で暮らす中で困りごとがあった際に相談した事がある人や窓口はどこですか。(いくつでも回答)

項 目	回答数	構成比
中央区役所	259	34.5%
おとしより相談センター(地域包括支援センター)	220	29.3%
社会福祉協議会	135	18.0%
民生・児童委員	47	6.3%
ケアマネジャー	116	15.5%
福祉センター(基幹相談支援センター)	42	5.6%
子ども家庭支援センター	17	2.3%
当事者団体/支援団体	25	3.3%
町会・自治会	80	10.7%
家族・親戚	208	27.7%
友人・知人	204	27.2%
近所の人	70	9.3%
その他	31	4.1%
相談できる人や窓口がなかった	14	1.9%
相談したくない	3	0.4%
特に困ったことがない	117	15.6%
無回答	54	7.2%
基数	750	100.0%



☑ 区内事業所（一般事業所）向けアンケート結果 調査データ（記述回答、設問は除く）

問1 従業員数を教えてください。

項目	回答数	構成比
1～19人	7	13.5%
20～49人	10	19.2%
50～99人	3	5.8%
100～999人	16	30.8%
1,000人以上	16	30.8%
無回答	0	0.0%
基数	52	100.0%

問2 事業所の所在地を教えてください。

項目	回答数	構成比
京橋地域	20	38.5%
日本橋地域	23	44.2%
月島地域	6	11.5%
無回答	3	5.8%
基数	52	100.0%

問3 業務分野を教えてください。

項目	回答数	構成比
農業・林業・漁業	0	0.0%
建設業	2	3.8%
製造業	4	7.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1.9%
運輸・通信業	8	15.4%
卸売・小売業	8	15.4%
金融・保険業	9	17.3%
不動産業	3	5.8%
宿泊・飲食サービス業	2	3.8%
医療・福祉	2	3.8%
その他	12	23.1%
無回答	1	1.9%
基数	52	100.0%

問4 中央区社会福祉協議会（中央区社協）をご存知ですか。

項目	回答数	構成比
知っている	30	57.7%
知らない	21	40.4%
無回答	1	1.9%
基数	52	100.0%

問5 現在、中央区内での地域貢献活動に取り組まれていますか。

項目	回答数	構成比
取り組んでいる	20	38.5%
過去はしていたが現在していない	0	0.0%
現在検討中	2	3.8%
取り組んでいない	27	51.9%
無回答	3	5.8%
基数	52	100.0%

【問6～13は、問5で「取り組んでいる」と答えた事業所の方への質問です】

問6 どのような活動分野ですか。（いくつでも回答）

項目	回答数	構成比
環境保全	9	45.0%
地域の防災	4	20.0%
地域の防犯	5	25.0%
まちづくり	7	35.0%
子どもの健全育成	2	10.0%
スポーツ振興	3	15.0%
文化・芸術	6	30.0%
障害者福祉	6	30.0%
保健・医療・健康づくり	0	0.0%
高齢者福祉	4	20.0%
その他	6	30.0%
無回答	1	5.0%
基数	20	100.0%

問7 どのような活動内容ですか。(いくつでも回答)

項 目	回答数	構成比
金銭の寄付	9	45.0%
技術やノウハウの提供	0	0.0%
従業員のボランティア活動支援	9	45.0%
NPOやボランティア活動への 従業員の派遣	4	20.0%
場所の提供	2	10.0%
イベントの開催	3	15.0%
物品の寄贈	7	35.0%
その他	2	10.0%
無回答	0	0.0%
基数	20	100.0%

問8 ※自由記述のため、割愛させていただきます。

問9 事業所の業務と地域貢献活動の両立を、どのように工夫されていますか。(いくつでも回答)

項 目	回答数	構成比
事業所として、地域貢献活動に 取り組む意義を従業員に伝える 機会を設けている	13	65.0%
地域貢献活動への関わりを通じて、 従業員のやりがいやモチベーション アップにつなげている	8	40.0%
活動時間や活動内容が、本業の 支障にならないように調整している	9	45.0%
活動のための支援制度（休暇制度や 交通費の支給等）を設けている	2	10.0%
活動を通じて地域との信頼関係や ネットワークを築き、本業に 生かしている	8	40.0%
活動が事業所の知名度や イメージアップにもつながるよう、 広報等を行っている	6	30.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
基数	20	100.0%

問10 地域貢献活動に取り組むにあたって、課題や
支障となると思われることは何ですか。(いく
つでも回答)

項 目	回答数	構成比
活動に取り組むための人員が 不足すること	8	40.0%
活動資金が不足すること	3	15.0%
活動を行う知識やノウハウの継承	2	10.0%
活動することの意義が次第に 薄れていってしまうこと	4	20.0%
特にない	7	35.0%
その他	1	5.0%
無回答	0	0.0%
基数	20	100.0%

問11 どのような支援があれば、活動を継続しやす
いですか。(2つまで回答)

項 目	回答数	構成比
活動が広報紙やインターネットで 紹介されること	3	15.0%
地域貢献活動について相談できる 窓口があること	3	15.0%
より魅力的な活動プログラムに するための支援が受けられること	6	30.0%
地域との信頼関係をより強化できる ような機会があること	6	30.0%
同じように活動する事業所同士の 交流・情報交換の機会があること	6	30.0%
その他	0	0.0%
無回答	3	15.0%
基数	20	100.0%

【問14～19は、問5で「検討中」・「取り組んでいない」と回答した事業所の方への質問です】

問14

活動を行っていない主な理由をご回答ください。（2つまで回答）

項 目	回答数	構成比
忙しくて時間がない	4	13.8%
活動に取り組むための人員がいらない	12	41.4%
資金的に余裕がない	2	6.9%
活動を行うきっかけがつかめない	9	31.0%
活動を行う知識やノウハウが足りない	12	41.4%
活動することの意義が見出せない	0	0.0%
その他	4	13.8%
無回答	0	0.0%
基数	29	100.0%

問15

今後取り組んでみたい活動分野はありますか。（2つまで回答）

項 目	回答数	構成比
環境保全	11	37.9%
地域の防災	6	20.7%
地域の防犯	2	6.9%
まちづくり	5	17.2%
子どもの健全育成	4	13.8%
スポーツ振興	2	6.9%
文化・芸術	8	27.6%
障害者福祉	6	20.7%
保健・医療・健康づくり	0	0.0%
高齢者福祉	0	0.0%
その他	0	0.0%
特になし	1	3.4%
無回答	1	3.4%
基数	29	100.0%

問16

今後取り組んでみたい活動内容はありますか。（2つまで回答）

項 目	回答数	構成比
金銭の寄付	1	3.4%
技術やノウハウの提供	9	31.0%
従業員のボランティア活動支援	18	62.1%
NPOやボランティア活動への従業員の派遣	2	6.9%
場所の提供	2	6.9%
イベントの開催	2	6.9%
物品の寄贈	1	3.4%
その他	1	3.4%
無回答	2	6.9%
基数	29	100.0%

問17

どのような支援があれば、貴社として活動を始めやすいですか。（2つまで回答）

項 目	回答数	構成比
従業員が気軽に参加できる機会の提供	17	58.6%
事業所ができる範囲で無理なく行える活動の提案	10	34.5%
事業所の希望と地域の希望をマッチングさせる支援	6	20.7%
活動を広報紙やホームページ等で広くPRする広報協力	1	3.4%
事業所同士の交流・情報交換ができる機会の提供	5	17.2%
その他	0	0.0%
無回答	1	3.4%
基数	29	100.0%

☑ 区内事業所（中央区商店街連合会・中央区工業団体連合会）向けアンケート結果
調査データ 調査データ（記述回答、設問は除く）

問1

働いている人（経営者・専従含む）の人数を教えてください。

項 目	回答数	構成比
1～4人	24	46.2%
5～9人	9	17.3%
10～49人	13	25.0%
50人以上	5	9.6%
無回答	1	1.9%
基数	52	100.0%

問2

事業所の所在地を教えてください。

項 目	回答数	構成比
京橋地域	26	50.0%
日本橋地域	21	40.4%
月島地域	5	9.6%
無回答	0	0.0%
基数	52	100.0%

問3

業務分野を教えてください。

項 目	回答数	構成比
卸・小売業	20	38.5%
製造業（印刷・製本含む）	14	26.9%
建設業	1	1.9%
電気・ガス・水道業	0	0.0%
運輸業	0	0.0%
通信業	0	0.0%
金融・保険業	0	0.0%
不動産業	3	5.8%
宿泊・飲食業	7	13.5%
医療・福祉	1	1.9%
その他	5	9.6%
無回答	1	1.9%
基数	52	100.0%

問4

中央区社会福祉協議会（中央区社協）をご存知ですか。

項 目	回答数	構成比
活動内容までよく知っている	9	17.3%
活動内容を一部知っている	15	28.8%
名称は知っているが詳しくは知らない	25	48.1%
知らない	1	1.9%
無回答	2	3.8%
基数	52	100.0%

問5-1

現在、中央区内でどのような地域活動を行っていますか。（いくつでも回答）

項 目	回答数	構成比
町会・自治会活動	43	82.7%
子ども・高齢者の見守り	6	11.5%
こども110番	8	15.4%
障害のある方の支援	2	3.8%
祭礼や地域行事の担い手	28	53.8%
健康づくりやスポーツ	2	3.8%
伝統文化の継承	7	13.5%
芸術・文化活動	5	9.6%
まちの美化・清掃	19	36.5%
地域の居場所づくり	1	1.9%
防犯活動	24	46.2%
防災活動	24	46.2%
環境保護活動（リサイクル活動など）	8	15.4%
寄付・募金活動	17	32.7%
その他	1	1.9%
地域活動は行っていない	5	9.6%
無回答	2	3.8%
基数	52	100.0%



問5-2 ※自由記述のため、割愛させていただきます。

問5-3 【問5-1で「地域活動は行っていない」と答えた方に】地域活動を行っていない理由についてお聞かせください。(いくつでも回答)

項目	回答数	構成比
時間的な余裕がないため	4	80.0%
金銭的な余裕がないため	1	20.0%
活動を行うノウハウがないため	1	20.0%
活動に取り組むための人員がないため	1	20.0%
活動したい気持ちはあるがなかなかできない	0	0.0%
その他	1	20.0%
無回答	0	0.0%
基数	5	100.0%

問6 今後貴事業所で新たに取り組んでみたい地域活動を教えてください。(いくつでも回答)

項目	回答数	構成比
町会・自治会活動	11	21.2%
子ども・高齢者の見守り	5	9.6%
こども110番	1	1.9%
障害のある方の支援	4	7.7%
祭礼や地域行事の担い手	7	13.5%
健康づくりやスポーツ	8	15.4%
伝統文化の継承	7	13.5%
芸術・文化活動	6	11.5%
まちの美化・清掃	12	23.1%
地域の居場所づくり	6	11.5%
防犯活動	7	13.5%
防災活動	10	19.2%
環境保護活動（リサイクル活動など）	10	19.2%
寄付・募金活動	4	7.7%
その他	3	5.8%
特になし	5	9.6%
無回答	6	11.5%
基数	52	100.0%

問7 どのような支援があれば、活動を始めたり、継続することができると考えますか。(2つまで回答)

項目	回答数	構成比
活動が広報紙やインターネットで紹介されること	9	17.3%
地域活動について相談できる窓口があること	7	13.5%
より魅力的な活動プログラムにするための支援が受けられること	9	17.3%
地域との信頼関係をより強化できるような機会があること	15	28.8%
同じように活動する事業所同士の交流・情報交換の機会があること	8	15.4%
活動するための場所の提供があること	5	9.6%
資金面での支援があること	20	38.5%
その他	1	1.9%
無回答	7	13.5%
基数	52	100.0%

6 パブリックコメントの実施

(1) 実施概要

- 目的 区内在住・在勤の方、地域福祉に関心のある方等、広く関係者の意見を反映させる。
- 内容 「第2期中央区地域福祉活動計画」素案に対するご意見について
- 募集期間 令和3年1月4日～1月15日
- 閲覧場所 中央区社会福祉協議会2階 窓口（中央区八丁堀4-1-5）
さわやかワーク中央 窓口（中央区東日本橋2-27-12）
社会福祉協議会ホームページ
- 意見の提出方法 社会福祉協議会窓口への持参、郵便、ファックス、電子メール
- 意見の提出数 1名・24件
- 意見等の概要及び回答の公表 令和3年3月に社協ホームページで公表した。

(2) 主な意見と回答

意見

◆ボランティアの機会は、福祉分野だけではない。公園の整備や、グリーンインフラの整備など区役所の都市整備部や環境土木部とも連携し、ボランティアの機会の創出をお願いしたい。

◆コーディネーターの連絡会を設置し、各分野での支援の情報交換、連携をお願いします。それぞれが、制度の狭間の方々をどのように支援しているか、そのノウハウが共有できるのではないかと考えます。

◆中央ぶらねっと参加企業を、大幅に増加できるように、取り組みをお願いします。企業へのアプローチ等、活動内容の案内を各企業に配布などをお願いします。

回答

・社協に登録しているボランティア団体は福祉分野以外にも環境、子育て、文化・教育など多岐にわたっており、今後も引き続き区民の幅広いボランティア活動を支援してまいります。

⇒P36「みんなが活動に参加しやすい地域」

・既存の協議体や地域ケア会議等において、関係機関・団体等との一層の連携強化に努めているところです。

⇒P40「取組4 支えあいを基盤とする地域づくり」

・「目指す地域の姿」の実現に向けた取り組み主体には企業・団体も含まれます。本計画が目指す支えあいの地域づくりに不可欠なパートナーと位置づけ、中央ぶらねっとや中央区社会福祉法人連絡会、社協法人会員などへの多様なアプローチを今後とも続けてまいります。

⇒P41「取組7 多様な活動主体のつながりとネットワークづくり」

策定委員からのコメント



松岡 誠一郎 副委員長

令和元年7月から1年半、計7回の委員会に出席し、多様な方々の意見を知り、大変勉強になりました。今後は地元町会活動で、新しいマンションの住民の方とのつながり作りを大切にしていきたいと思いました。そしてこの活動計画が推進実行されて、中央区がより良くなることを望みます。

鈴木 英子 委員



去年、今年と続いているコロナ禍でわかったのが、「つながり」の大切さではなかったでしょうか。今まで私たちが地域活動で作り上げてきた「つながり」が、このコロナ禍で一挙に絶たれてしまいましたが、さまざまな媒体を駆使しながら、あるいはできる限りのアイデア、工夫を重ねながらその「つながり」を絶やさないようにしたこの一年でした。この「地域福祉活動計画」に目を通して下さったあなたと、会える日を待ち望んでいるこの頃です。

山崎 勇 委員



この度は第2期地域福祉活動計画策定委員会に初めて参加させていただきましてありがとうございました。地域全体をより良くするため、また皆がつながり支えあい、安全に安心して暮らせるよう、これからも社会福祉協議会の活動に努めていきたいと思っています。

中西 幸二 委員



委員を拝命し、会合に参加する度に皆様方の知識の豊富さにおそれおののいていました。また、各案件に対する意見を的確に述べられた方々に対して、我が身のつたなさをただただ恥じ入る思いでした。今後は皆様と対等に話ができますよう努力いたそうと思います。

岩崎 くみ 委員



この度策定委員会に参加させていただき、地域の皆様のさまざまなご意見を伺い、大変勉強になりました。地域福祉活動を進めるためには、人のつながりが大切であることを改めて感じました。私たちが積極的に地域とつながりを持ち、中央区のより良いまちづくりを目指していきたいと思っています。ありがとうございました。

小林 哲 委員



地域がつながる可能性を沢山教えてくださった委員会でした。災害や感染症などの対策を進めていく中で、最終的に頼りになるのは身近な地域だと痛感しています。障害のある方々を地域の皆さんにもっと知ってもらえるよう行動していきたいと思っています。

策定委員からのコメント



當山 貴子委員

地域福祉活動計画策定に参加させていただき、ありがとうございました。みなさんの思いが込められたこの計画が、今後どのような形で実現していくのか楽しみです。私たちおとしより相談センターも、その実現に向けて一緒に活動していきたいと思います。

相澤 俊一委員

私は障害者団体より参加させていただき、色々な分野で活動されている方々の意見を聞き大変勉強になりました。特に「地域のつながりづくり」の重要性を強く感じました。これからは私たち障害者も行政・町会・自治会等の行事に積極的に参加し、地域の人達とのふれあいを大切にしていきたいと思います。



村田 美緒委員

この度、中央区地域福祉活動計画策定に携わることができ、感謝しております。コロナ禍という時期も重なって、特に人と人のつながりの大切さをより感じました。自分たちが地域の一員として何をしていけるのか考えるきっかけになったと思います。ありがとうございました。

杉原 志保委員

気軽に参加や交流ができるきっかけがあると、多様な地域住民の力を生かすことができ、まちの課題を解決する地域力向上にとっても有効です。第2期計画に盛り込まれたことを追い風に、日常のつながりから、活動の充実が図られることを期待します。



五十嵐 公一委員

区内事業者として参加させていただき、ありがとうございました。中央区の福祉について、さまざまな議論がなされ、充実した委員会でした。この計画で、6年後には更に笑顔あふれる中央区になっていると思います。

金井 良委員

理学療法士の立場から本委員会に初参加いたしました。社協並びに他の委員の皆様による積年の活動により中央区民の豊かな暮らしが支えられていることを強く感じる会でした。私たちも襟を正し、コロナ後の地域づくりにより一層貢献できるよう活動してまいります。





下川 由美子委員

人と人との分断や孤立が生まれる危機の時代にあって、地域のつながりは、生命を守る社会的基盤であることを、あらためて学びました。さまざまな研究が、「多様なつながりのある人は、困難を乗り越える力があり、免疫力も高い」と証明しています。「地域福祉推進の主役は、区民の私たち」との誇りを胸に、江戸由来の励ましあい、助けあいの心で、皆様と力をあわせて頑張りたいと思います。

箕輪 慎委員

今まではボランティア活動を通じて福祉の一部に触れてきましたが、今回地域福祉について総合的にまた部分についての深堀をすることにより地域福祉の多様性と緊急性について議論することができました。さらにさまざまな調査等により区民の意識を知ることができ、私の意識の変革に役立ちました。即ち、住民主体で地域の助けあい、支えあいの必要性を感じ、誰かが行動するだろうではなく、誰かに影響を与える行動を始めなければならないと痛感しました。



佐藤 栄司委員

区民を代表する方々のさまざまな意見や思いが聞けて、大変勉強になっております。改めて区内一事業所として中央区の地域福祉の発展に貢献できればと感じました。今後共、区民の皆様との縁を大事にしながら、より良い未来に向けて発信していきたいと思います。

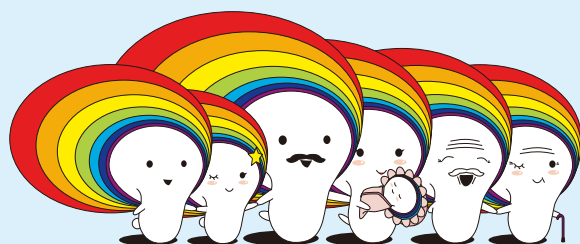
田中 智彦委員

8050 問題などの多様で複合化した地域の生活課題を解決するためには、「つながりと支えあい」という基本理念のもと、地域でのさまざまな活動が展開されることが大切です。本計画の目指す姿が実現できるよう社会福祉協議会と連携してまいります。



古田島 幹雄委員

計画策定中は、委員はじめ区民の皆さんから、コロナ禍での活動継続など、さまざまなご意見をいただきました。社協では、これまで皆さんがはぐくんできた地域の絆を基盤として、これからの時代を見据えた「新しい支えあいの地域づくり」を進めていきたいと考えます。



第2期中央区地域福祉活動計画
令和3年3月

【編集・発行】

社会福祉法人中央区社会福祉協議会

〒104-0032

東京都中央区八丁堀 4-1-5

TEL 03-3206-0506

FAX 03-3206-0601

Eメール kakehashi@shakyo-chuo-city.jp

ホームページ <https://www.shakyo-chuo-city.jp/>

